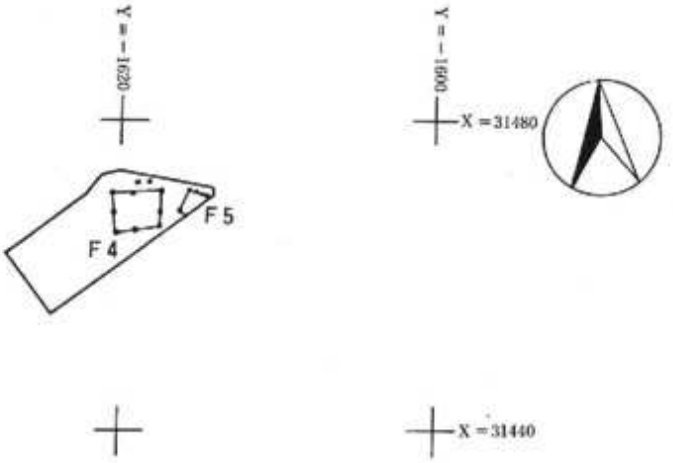
曽根新城遺跡Ⅳ地区



第63図　曽根新城遺跡Ⅳ地区

写真149　曽根新城遺跡Ⅳ地区

第４節　曽根新城遺跡Ⅳ地区

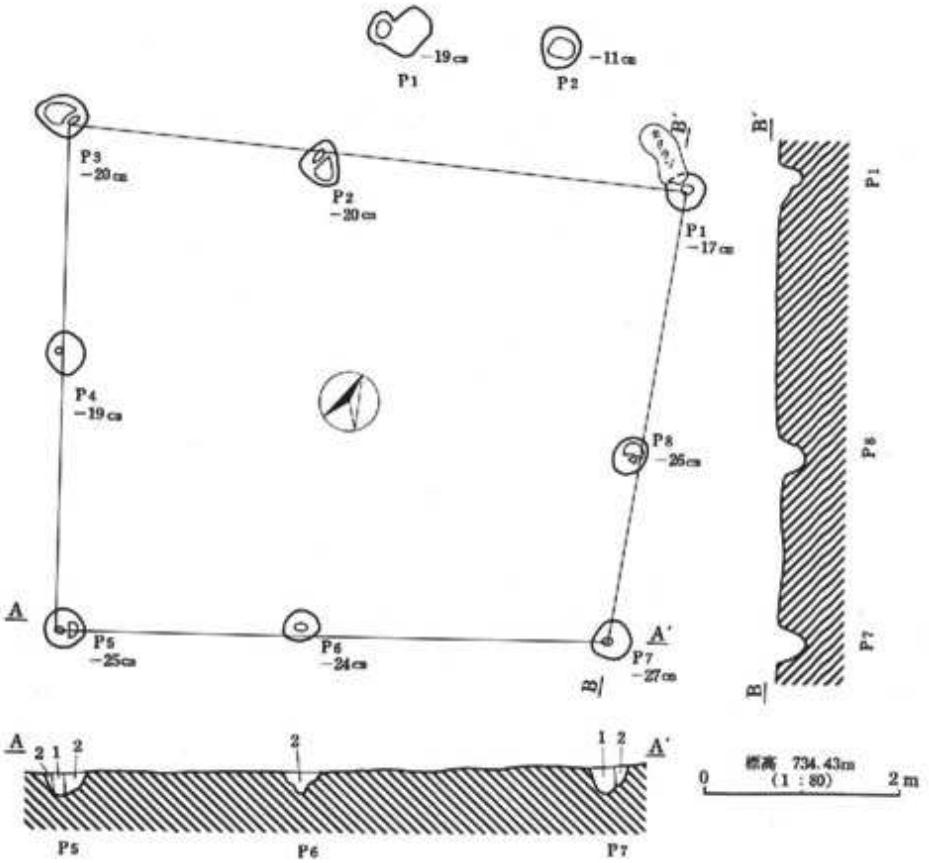
１、掘立柱建物址

１）Ｆ４号掘立柱建物址

Ｍお－３グリットにあり、桁行き２間×梁行き２間の建物である。5.6m×5.2mを測る。柱の径は40cm内外で、深さは17～27cmを測る。主軸方向はＮ－20°－Ｗを指す。柱の柱痕が一部残り暗褐色土であった。全体は整った方形でなく歪んでいる。

写真150　Ｆ４号掘立柱建物址（東より）

写真151　Ｆ４号掘立柱建物址（西より）



土層説明
1．暗褐色土層（10YR3／3）
2．暗褐色土層（10YR3／4）

第64図　F4号掘立柱建物址・P1・P2実測図

2）F5号掘立柱建物址

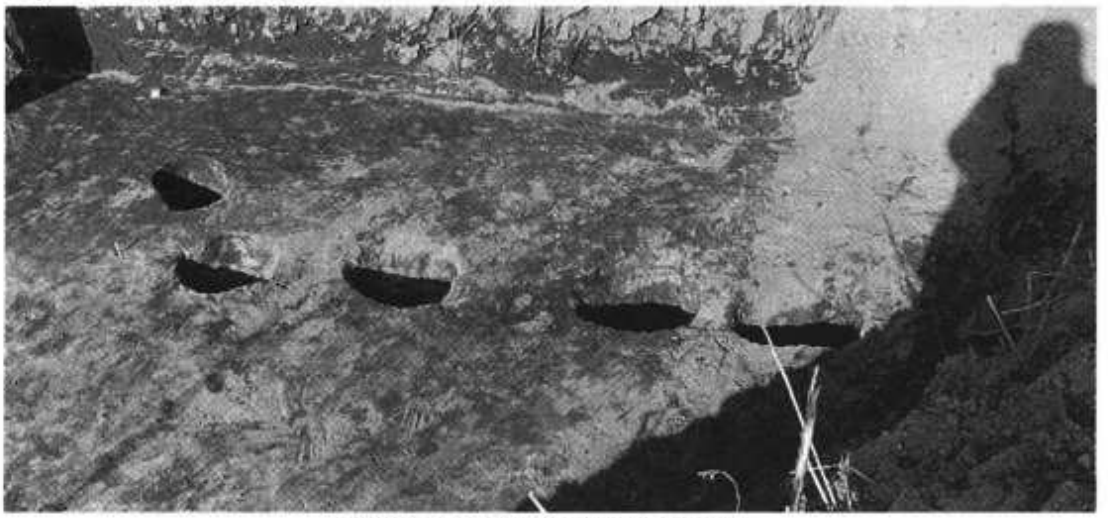
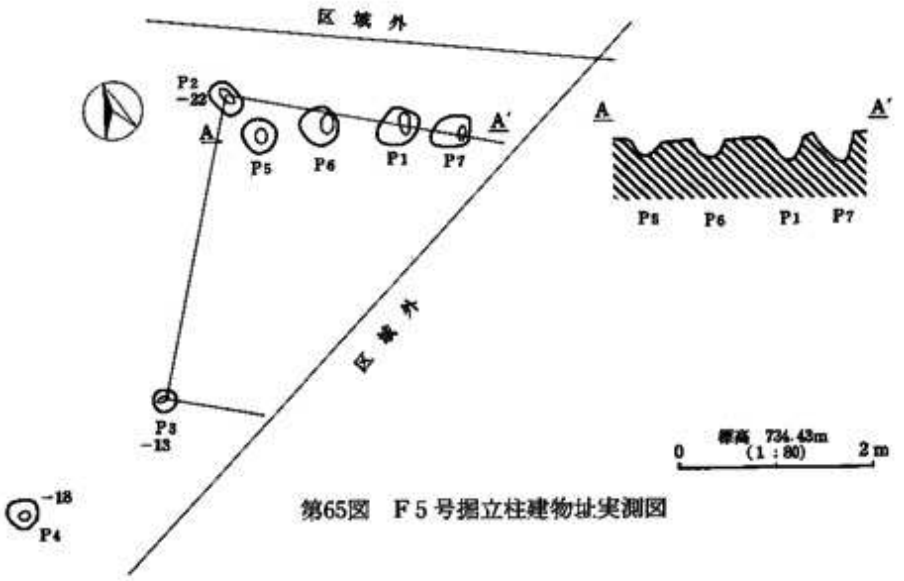


写真152　F5号掘立柱建物址（南より）



第65図　F５号掘立柱建物址実測図

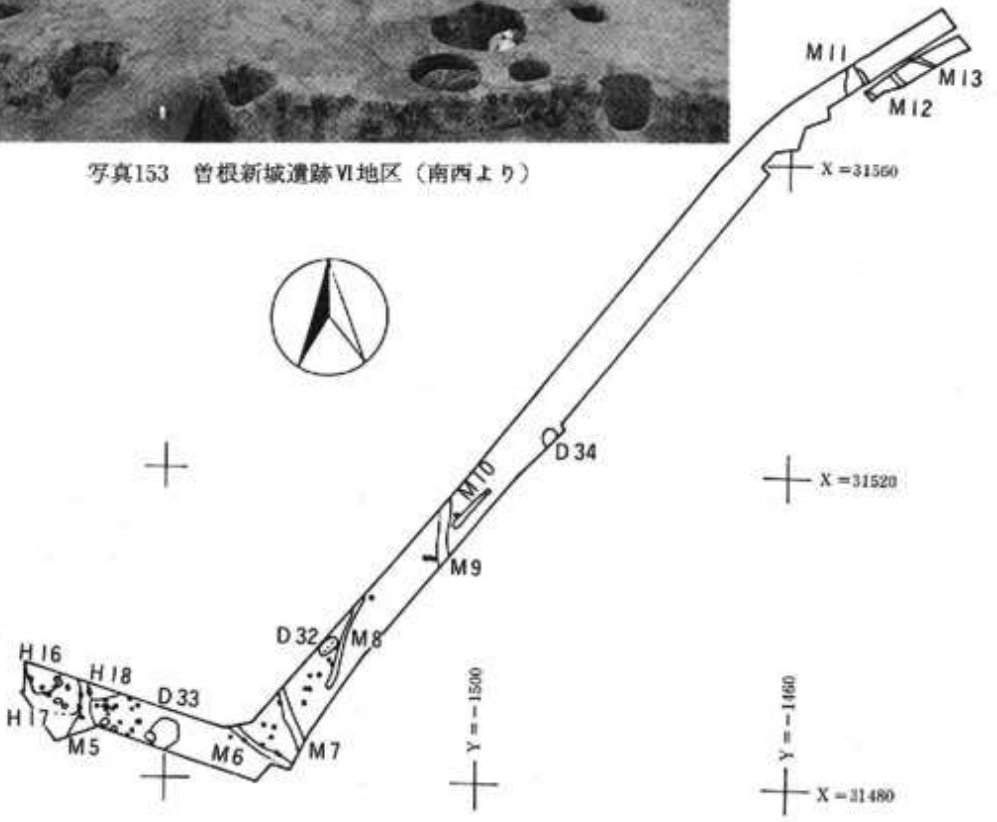
Ⅳ地区東端Ｍう－３グリットにある。東側が区域外であるため、全体はわからない。

２、ピット

第64図に２個、第65図に４個のピットが検出された。

曽根新城遺跡Ⅵ地区

写真153　曽根新城遺跡Ⅵ地区（南西より）



第66図　曽根新城遺跡Ⅵ地区

第５節　曽根新城遺跡Ⅵ地区

１、竪穴住居址

１）H16号住居址

写真154　H16号住居址（南より）

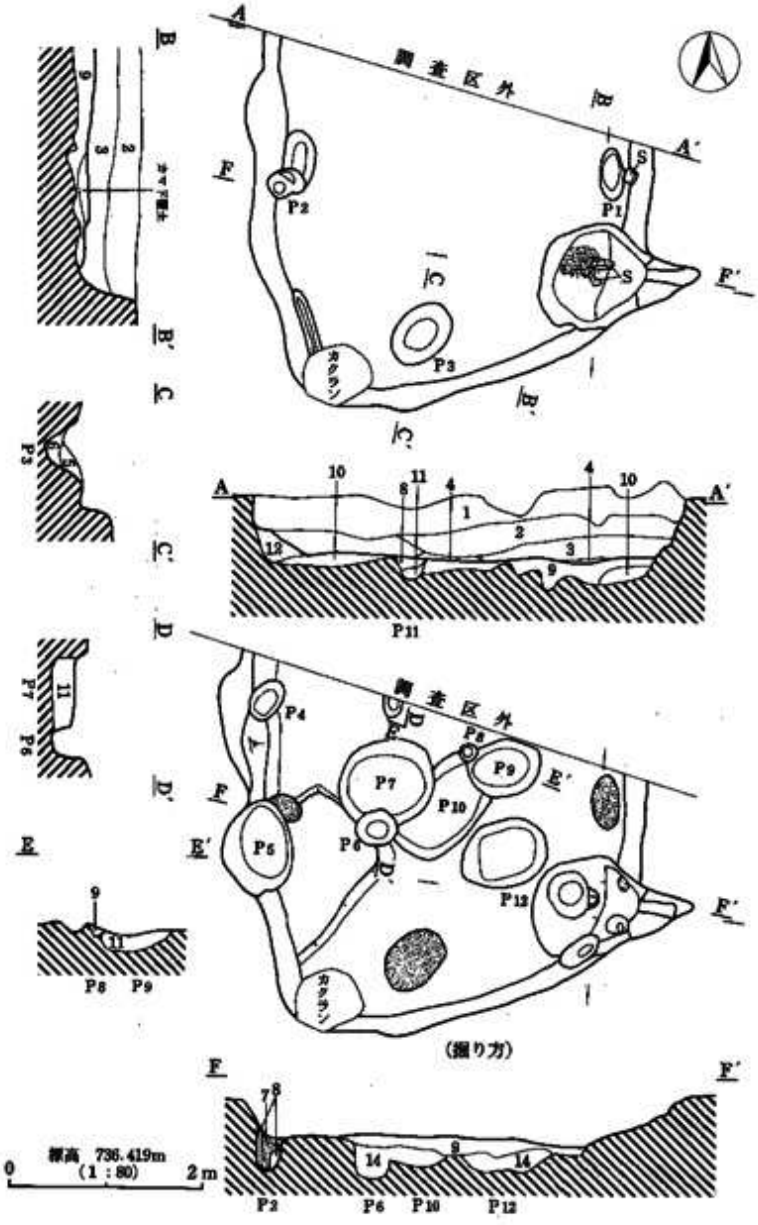
写真155　H16号住居址（西より）

Ⅵ地区西端のＧけ－８にある。長軸は南北にもつのであろうが、北側は調査区域外であるため、南北の規模はわからない。黒色土から灰黄褐色粘土層まで掘り込んで構築している。東西は3.56mを測る。主軸方位Ｎ－０°で北を指す。カマドは南東ににある。南西にブドウ棚の引っ張り石による攪乱がある。

床面はロームブロックを含む黒褐色土で貼り床され生活面は堅く締まっていた。床下からは、Ｐ４～P12の９個の大小のピットがある。床下を複雑に掘り込むのがこの時期の住居址によく見られる。

柱穴はP1～P3が生活面で検出され、P1とP2が主柱穴で、東西の壁に接している。

覆土は黒褐色土で４回に堆積している。



H16土層説明

1　黒色土層（10YR1.7／1）
　3mm大の小石を含む。
2　黒褐色土層（10YR２／２）
　細かいパミス・ローム粒子含む。
3　黒褐色土層（10YR２／２）
　ローム粒子・ロームブロック多く含む。
4　黒褐色土層（10YR２／３）
　ローム粒子含み、しまりなし。
5　黒褐色土層（10YR２／２）
　ローム粒子含む。
6　黒褐色土層（10YR1.7／1）
　ローム粒子含む。
7　黒褐色土層（10YR２／２）
　柱痕。しまりまるでなし。
8　にぶい黄橙色土層（10YR７／３）
　にぶい黄橙色ロームに黒色土含む。
9　黒褐色土層（10YR３／２）
　貼り床。ロームブロックを多く含み、上面は堅くたたき締められている。
10　黒褐色土層（10YR２／２）
　ロームブロック含む。
11　黒褐色土層（10YR２／２）
　白色粘土ローム混。しまる。
12　黒褐色土層（7.5YR２／２）
　にぶい赤褐色ローム含む。
13　灰黄褐色土層（10YR５／２）
　地山の粘土層。しまりなし。
14　にぶい黄橙色土層（10YR３／２）
　にぶい黄橙色粘土に黒色土含む。

第67図　H16号住居址実測図

カマドは南東コーナーあり、

東に煙道が向いている。長さ140cm幅80cmを測る。煙道が良好に残り、火床部から緩やかな傾斜で立ち上がり、壁から50cm突き出ている。煙道下面と右袖下部・火床部が残っていた。支脚石は立ったまま残り、安山岩を割り角柱状にしただけのもので整えた様子はない。焼土層も厚く堆積していた。

写真156　H16号住居址掘り方（南より）

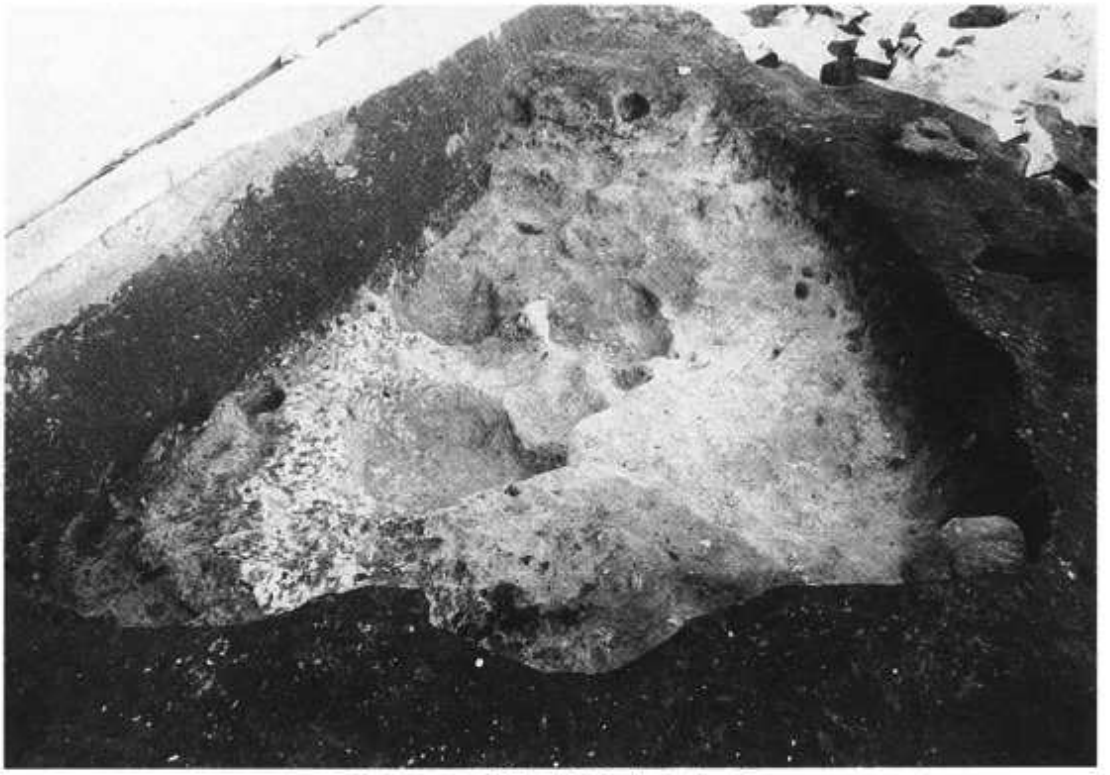
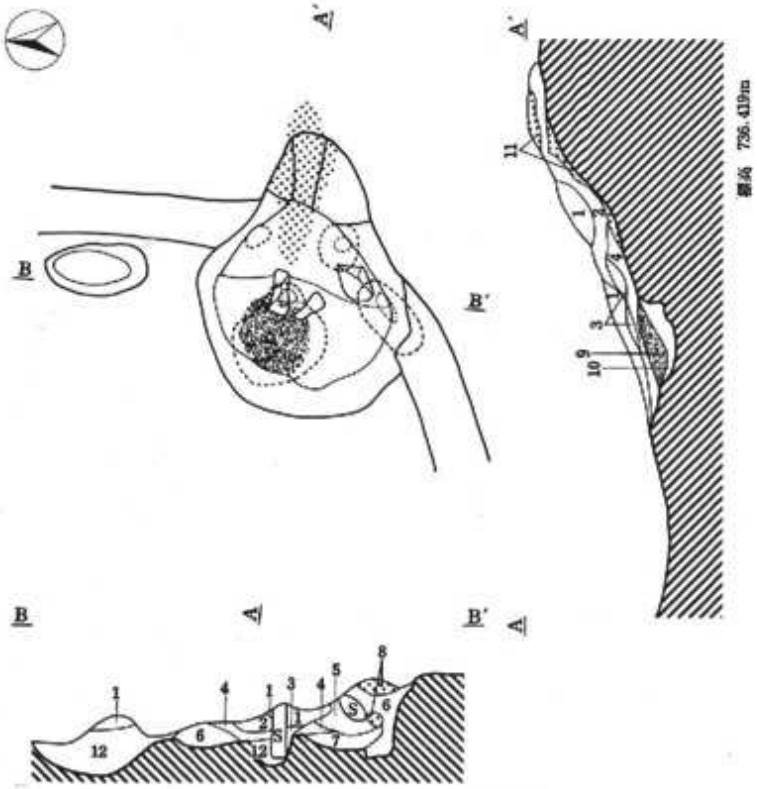


写真157　H16号住居址掘り方（西より）

H16カマド土層説明

1　にぶい黄褐色土層（10YR 5／4）
　粘土層。天井崩壊層。
2　暗褐色土層（10YR 3／3）
　1層の粘土粒子と赤褐色ローム土含む。
3　暗褐色土層（7.5YR 3／3）
　粘土ブロック含む。
　1～3層天井崩壊層。
4　黒褐色土層（7.5YR 3／2）
　しまりなし。灰を含む。
5　にぶい褐色土層（7.5YR 5／4）
　ローム主体。
6　暗褐色土層（10YR 3／3）
　灰白色粘土・にぶい黄褐色粘土含む。
7　にぶい黄橙色土層（10YR 7／2）
　ローム層。しまりなく、黒色土含む。
8　灰黄褐色土層（10YR 6／2）
　粘土。
9　赤褐色土層（5YR 4／6）
　焼土層。
10　にぶい橙色（10YR 6／4）
　黒色土含む。
11　にぶい赤褐色土層（5YR 5／4）
　粘土。
12　黒褐色土層（10YR 2／3）
　ローム ブロック含む。



第68図　H16号住居址カマド実測図

写真158　H16号住居址カマド（西より）

写真159
H16号住居址火床部
（西より）

写真160
H16号住居址カマド掘り方（西より）

写真161
H16号住居址カマド掘り方（南より）

遺物

土器4.85kgと砥石（砂岩製）、鉄製の刀子が折れ曲がった状態で出土している。

土器は軟質の須恵器杯・甕片・長頸壺、土師質の小皿、砂質の甕形土器、羽釜、灰釉陶器椀がある。

小皿は灯明皿として利用したものらしく、口縁に油煙が付き、わずかに縁を欠いている。東側床面より出土している。

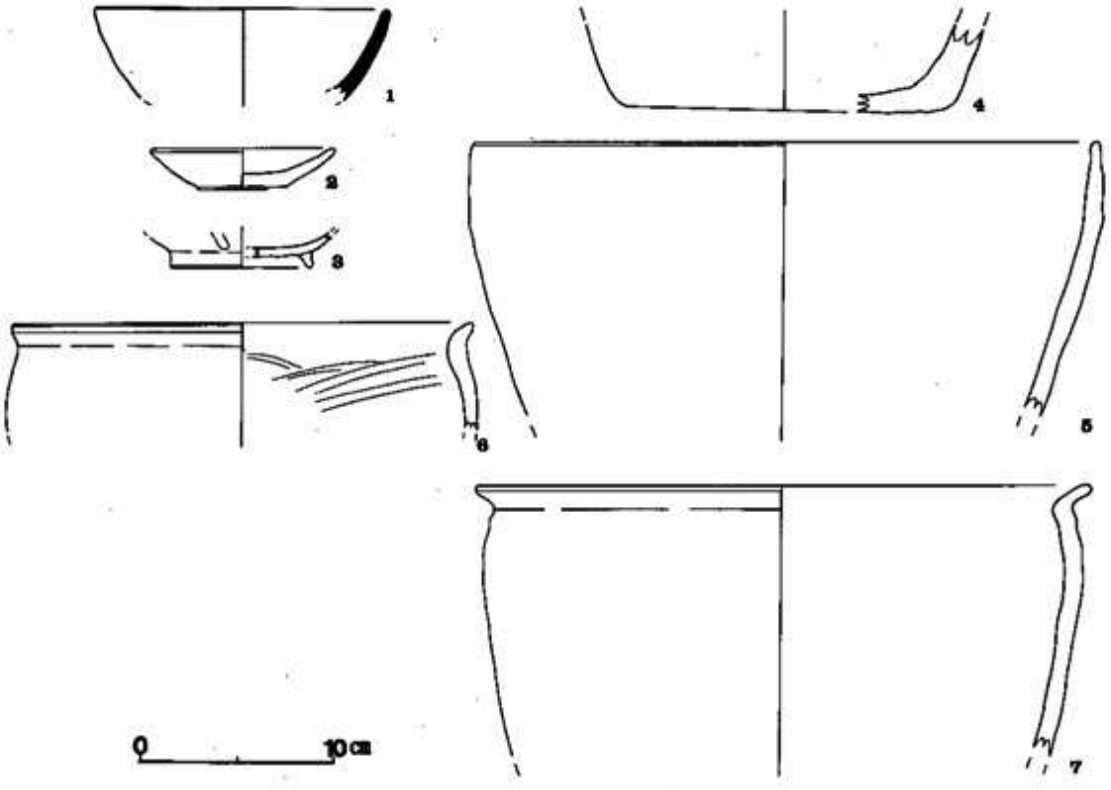
羽釜は底部が実測された。5は鍔がないが調整胎土は羽釜と同じである。

甕形土器は厚手で口縁が短く外反する6がある。金ウンモが胎土に多く含まれている。7は内稜をもって、短く折れるものである。やや粗い砂粒を含む。両者とも外面はナデ調整される。

灰釉陶器椀は脚が短く丸味を持つものである。

1の須恵器杯は軟質で、厚い。

これらより11世紀後半の時期であろう。



第69図　H16号住居址出土遺物実測図

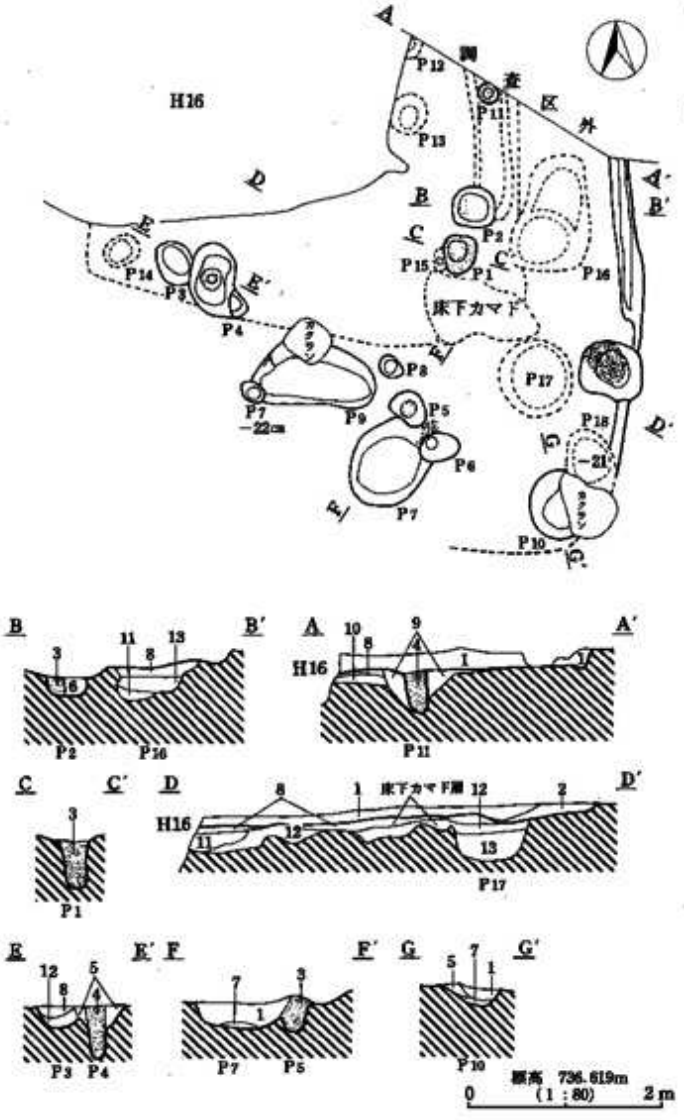
2）H17号住居址

遺構

H16号住居址の東Ｇく－８グリットにある。西側をH16号住居址に切られ、浅い住居址で残高が少ないため、生活面が削平され良好な状態で調査できなかった。また、この住居址の床下からは他の旧プランが検出され、どのピットがどのプランに伴うのか明確にできない遺構であった。主軸方位はＮ－０°を測る。

生活面は把握できなかった。

カマドは東壁にあり、長さ64cm幅60cmを測る。火床部の焼けた跡が確認できた。旧カマドは内側にあって、旧住居址の南東隅にある。長さ248cm幅144cmを測り、カマドに使用した袖石等をそのままに貼り床していた。



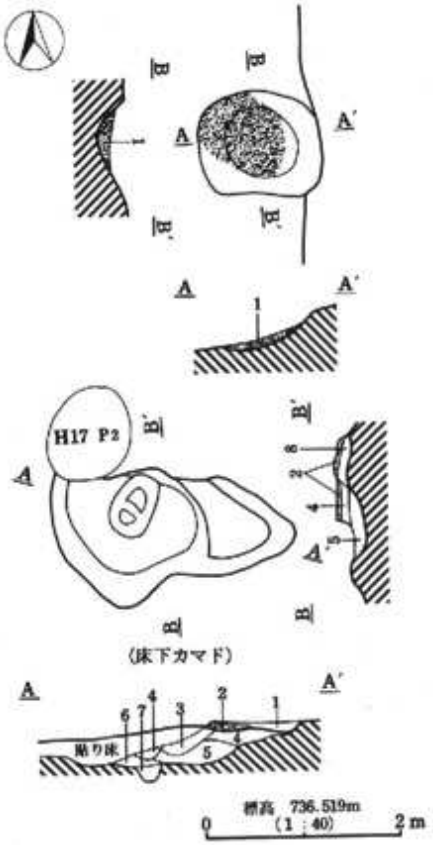
H17土層説明

1 黒褐色土層（10YR２／２）
パミス粒多く含む。
2 黒褐色土層（10YR２／３）
焼土粒子含む。
3 黒褐色土層（10YR２／３）
ロームブロック含む。しまりなし。柱痕。
4 黒色土層（10YR1.7／１）
しまりなし。柱痕。
5 黒褐色土層（10YR２／３）
ローム粒子多い。
6 暗褐色土層（10YR３／３）
ローム粒子多い。
7 黄褐色土
8 黒褐色土層（10YR２／３）
白色ローム粒子含む。貼り床。
9 褐色土層（10YR４／６）
ローム粒子含む。
10 褐色土層（10YR４／４）
黒色土含む。
11 黒色土層（10YR1.7／１）
ロームブロック含む。
12 黒褐色土層（10YR２／３）
黒色土とロームブロック混じる。
13 黒褐色土層（10YR２／２）
ちみつ土。

第70図　H17号住居址実測図

写真162　H17号住居址（南より）

写真163　H17号住居址掘り方（南より）



第71図　H17号住居址カマド
・掘り方カマド実測図

H17カマド土層説明

1　赤褐色土層（5YR 4／6）
　　焼土層。

H12床下カマド

1　明褐色土層（7.5YR 5／6）
　　ローム焼けてサラサラ
2　赤褐色土層（5YR 4／6）
　　焼土層。
3　明褐色土層（7.5YR 5／6）
　　焼土粒子多く含む。
4　極暗褐色土層（7.5YR 2／3）
　　炭化物粒子。
5　暗褐色土層（10YR 3／4）
　　ローム粒子含む。しまりなし。
6　暗褐色土層（7.5YR 3／3）
　　焼土粒子多く含む。
7　黒褐色土層（10YR 2／2）
　　黒色土含む。
8　褐色土層（10YR 4／4）
　　ローム土体。

写真163　H17号住居址カマド（西より）

写真164　H17号住居址掘り方カマド（西より）

写真165　H17号住居址掘り方カマド掘り方

遺物

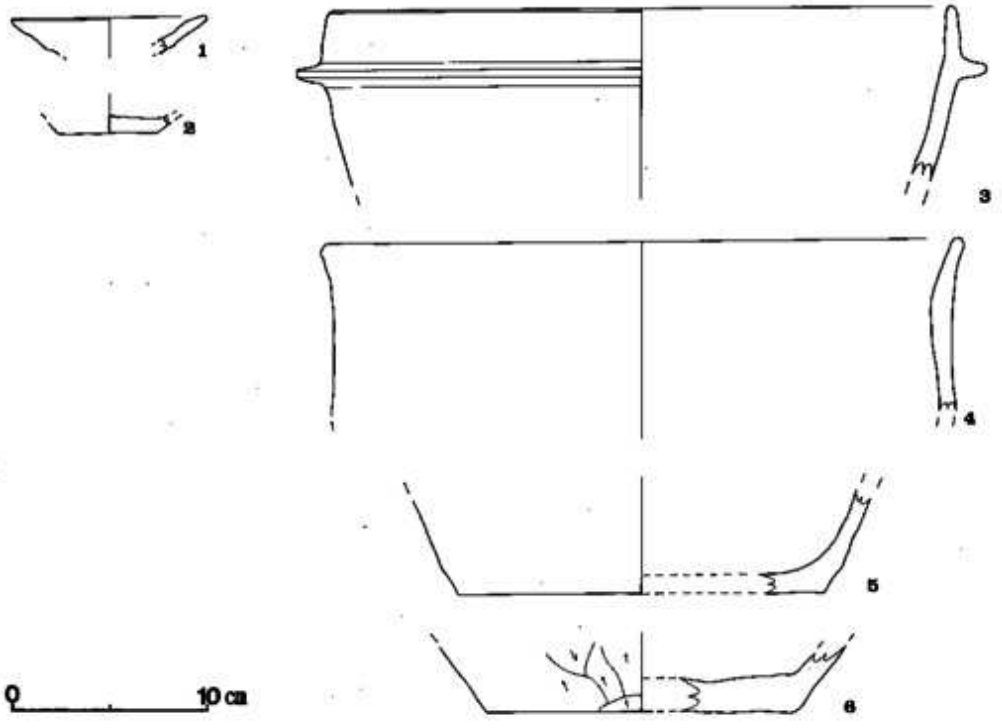
土器2.05kgと鉄製の刀子・苧引鉄が出土している。

土器は土師質の杯・小皿、羽釜、甕がある。他は須恵器の大甕の破片がある。

土師質の杯・小皿はロクロ調整のままで、焼き締まりは良くない。羽釜は口縁部に近い位置に鍔が付く。胎土は細かい砂粒を含む。5・6は底部に粗い砂が付いている。

鉄製品は刀子・苧引鉄がある。苧引鉄は柄の部分の木質が金具に付着した状態で、残っている。

これらの土器での時期の判別は困難であるが、11世紀代以降であろう。



第72図　H17号住居址出土遺物実測図

3）H18号住居址

遺構

H17の東にあってGき－8グリットにある。住居址全体の南西隅が調査できたのみで、大半は区域外である。壁残高は24cmを測る。

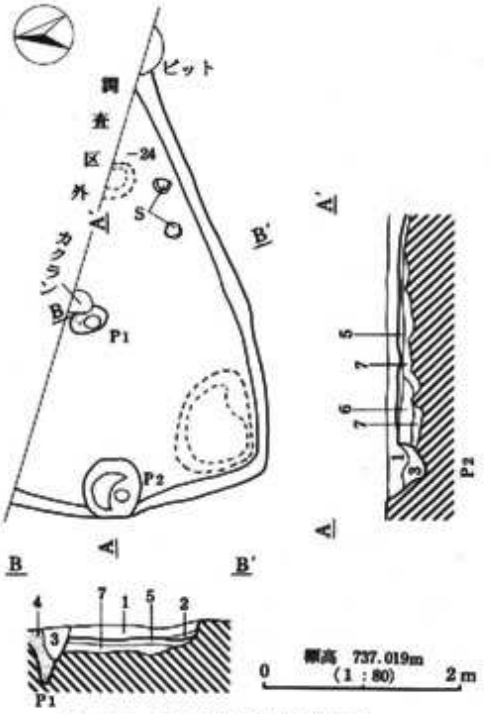
床面はロームブロックを含む黒褐色土で貼り床され、中央部は締まるが、全体的には軟弱であった。床下の掘り方は南東隅が少し窪む。

覆土は黒褐色土である。

カマドは検出されていない。

H18土層説明

1　黒褐色土層（10YR２／２）５mm大のパミス多く含む。
2　黒褐色土層（10YR２／３）
3　黒褐色土層（10YR２／２）ローム粒子多く含む。
4　黄褐色土層（10YR５／６）ローム主体で、しまりなし。柱痕か。
5　黒褐色土層（10YR３／２）貼り床。ロームブロック・黒色土ブロック含む。
　中央は締まるが、全体的軟弱。
6　黒褐色土層（10YR２／３）ロームブロックと黒色土ブロック混。
7　黄褐色土層（10YR５／６）いくらかの黒色土含む。しまりなし。



第73図　H18号住居址実測図

写真167　H18号住居址（西より）

写真168　H18号住居址掘り方（西より）

第74図　H18号住居址出土遺物実測図

遺物

土器475g と鉄鏃・鉄滓520g が出土している。鉄鏃はP2内からの出土である。

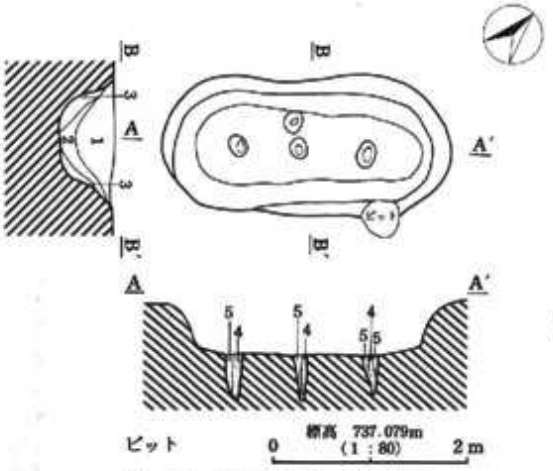
土器は土師質の小皿・鉢形土器？の高台がある。羽釜の小破片もある。須恵器は杯口縁部片・長頸壺口縁・甕胴部片がある。灰釉陶器椀の破片もある。

これらから時期判断は難しいが土師質小皿の存在等から11世紀頃のものと考えられる。

2、土坑

1）縄文時代の陥し穴

D32号陥し穴　Ⅵ地区の真ん中辺りのＦこ－６グリットにある。長径292cm短径144cm深さ52cmを測る。底面には径20cm程のピットが３個あり、杭痕が観察された。



D32土層説明
1　黒色土層（10YR1.7／1）パミス粒５mm大含む。
2　褐色土層（7.5YR４／３）橙色ローム多く含む。
3　にぶい褐色土（7.5YR５／４）ローム主体。
4　褐色土層（10YR４／４）しまりなし。杭痕。
5　にぶい黄褐色土（10YR５／４）ローム。

第75図　D32号陥し穴実測図

写真169　D32号陥し穴（北より）

写真170　D32号陥し穴ピット半裁（南より）

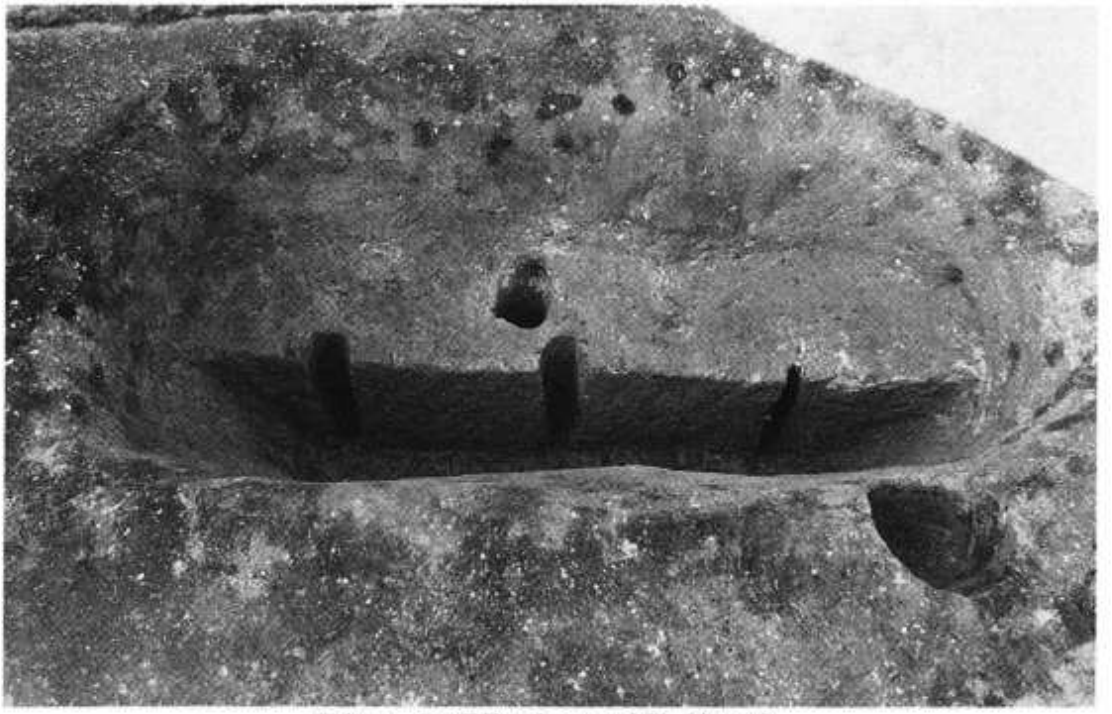
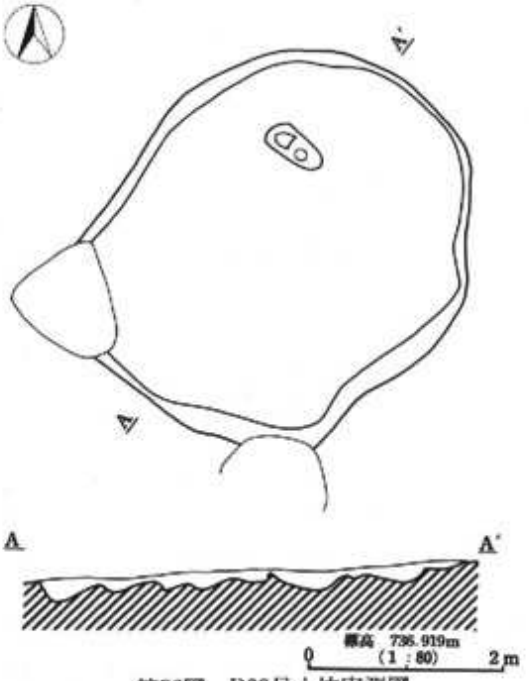


写真171　D32号陥し穴ピット完掘（南より）

2）D33・34号土坑



第76図　D33号土坑実測図

D33号土坑　Ⅳ地区西側の東のＧこ－９グリットにあり、長径4.2m短径3.6mの不整形で深さ20cmを測る。底面は凹凸が激しく、地山が粘土質であることから粘土の採掘坑かと思われる。

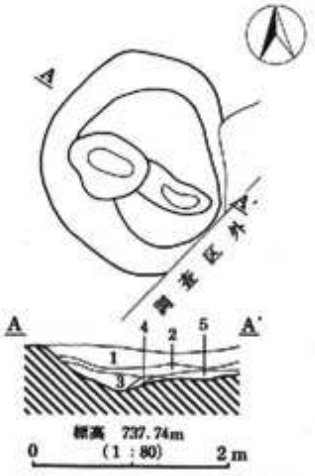
D33土層説明

1　褐色土（7.5YR４／４）
　　橙色ローム（５YR６／６）の粘土質土に黒色土含む。

写真172　D33号土坑（南東より）

D34号土坑　Ⅵ地区東側中央のＤく－９グリットにある。

径2.2m の不整円形で深さ48cmを測る。



第77図　D34号土坑実測図

D34土層説明

1　黒褐色土層（10YR２／２）小円礫含む。
2　暗褐色土層（10YR３／４）ローム ブロック含む。
3　黒褐色土層（10YR２／３）ローム粒子含む。
4　暗褐色土層（10YR３／４）ローム粒子多く含む。
5　黄褐色土層（10YR５／４）ローム主体。

写真173
D34土坑土層断面
（南より）

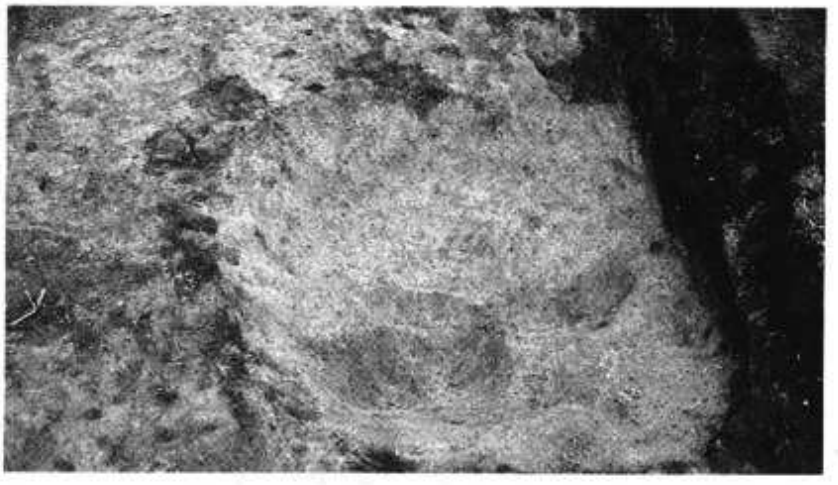
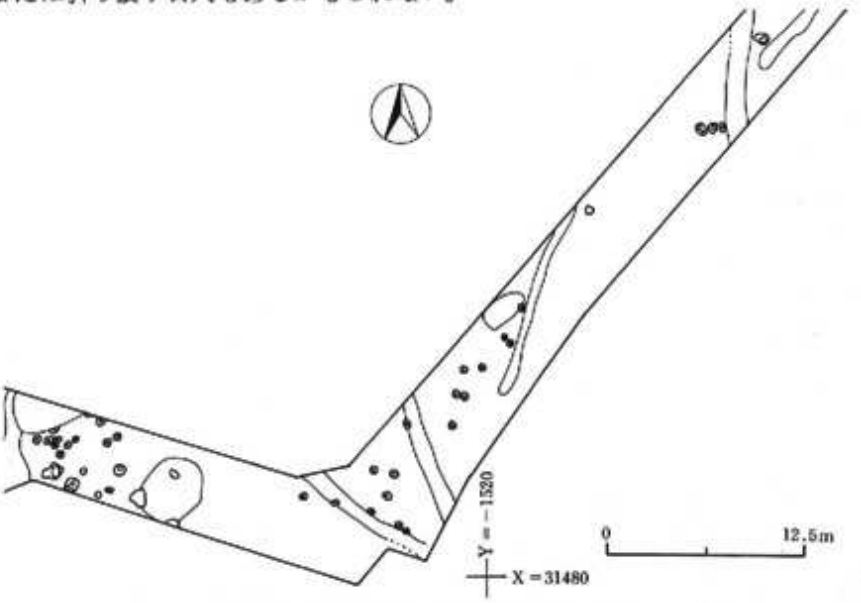


写真174
D34号土坑（南より）

3、ピット

多くのピットが検出されたが、建物址として組めるものはなかった。ピットの中にはブドウ栽培の支柱または引っ張り石穴もあるかもしれない。



第78図　Ⅵ地区ピット群実測図（1：500）

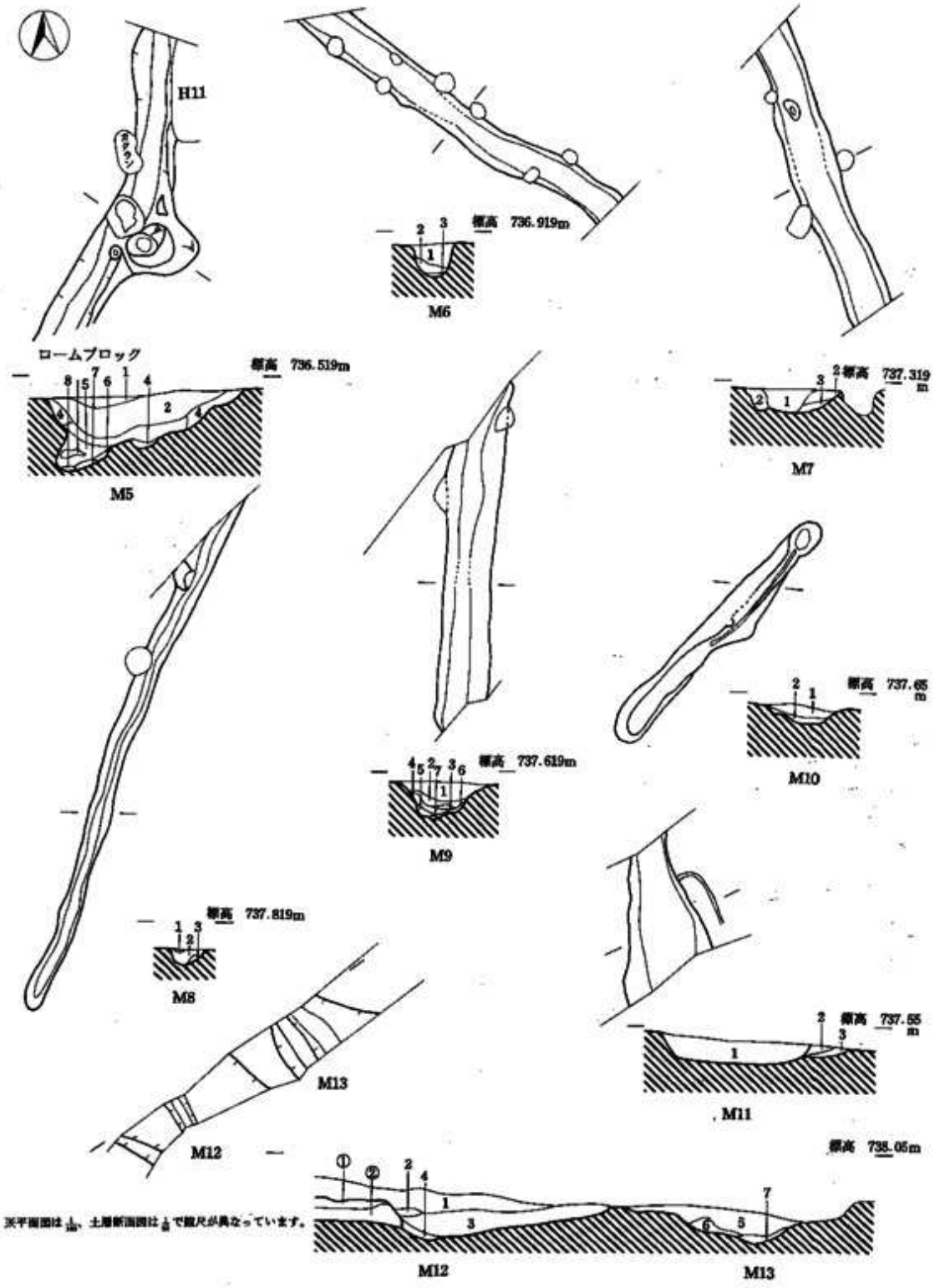
写真175　ピット群（西より）

4、溝状遺構

1）M5～M13号溝状遺構

写真176　M5号溝状遺構土層断面

写真177　M5号溝状遺構（南より）



第79図　M５～M13号溝状遺構実測図

M５土層説明

M５
1　褐色土層（7.5YR４／４）シルト質。
2　黒褐色土層（10YR２／２）パミス５mm大含む。
3　黒褐色土層（10YR２／２）ローム粒子２層含む。
4　にぶい黄褐色土層（10YR４／３）ローム粒子多く含む。
5　黒褐色土層（10YR２／２）明赤褐色のロームブロック含む。
6　にぶい褐色土層（7.5YR５／４）ローム主体。
7　黒色土層（10YR1.7／１）ちみつ土。
8　にぶい黄褐色土層（10YR５／４）砂質土。

M６
1　黒褐色土層（10YR２／２）パミス１mm大含む。ちみつ土。
2　黒褐色土層（10YR２／３）パミス・ローム粒子含む。
3　にぶい黄褐色土層（10YR４／３）ローム主体。

M７
1　黒褐色土層（10YR２／２）小石含む。
2　黒褐色土層（10YR２／３）ローム粒子含む。
3　暗褐色土層（10YR３／３）ローム主体。

M８
1　黒褐色土層（10YR２／３）砂層。
2　褐色土層（10YR４／４）５mm大パミス含む。
3　黒褐色土層（10YR２／３）２層と混じる。

M９
1　黒褐色土層（10YR３／１）細かいパミス含む。
2　黒褐色土層（10YR２／３）ローム粒子多く含む。
3　黒褐色土層（10YR３／１）１層に近い。
4　にぶい黄褐色土層（10YR４／３）ロームに黒色土含む。
5　褐色土層（10YR４／６）ローム主体。
6　黒褐色土層（10YR２／３）ローム粒子含む。
7　黒褐色土層（10YR２／２）ローム少々含む。

M10
1　黒褐色土層（10YR２／３）小石含む。
2　褐色土（10YR４／６）ローム主体。

M11
1　黒褐色土層（10YR２／２）
　ローム含む。
2　黒褐色土層（10YR２／２）
　小石含む。
3　にぶい褐色土層（7.5YR５／４）
　ローム含む。

M12・13
1　暗褐色土層（10YR３／４）砂質土。
2　黒褐色土層（10YR２／３）砂質土。
3　暗褐色土層（10YR３／３）砂層。
4　暗褐色土層（10YR３／４）しまってかたい。
5　黒色土層（10YR1.7／１）ちみつ土。
6　黒褐色土層（10YR２／２）ローム混じる。
7　にぶい褐色土層（7.5YR５／４）ローム主体。
①　黒褐色土層（10YR２／２）石含む。
②　暗褐色土層（10YR３／３）ローム粒子含む。

M５号溝状遺構　Ⅵ地区西のＧく－７グリットにある。Ⅲ地区のＭ３号溝状遺構に真っ直ぐ流れ込むものである。合流点はＭ３号が北西に方向を変える角である。H18号住居址に上面を切られており、それより古く平安時代中頃以前の溝である。幅104cm深さ30cmを測る。

M６号溝状遺構　Ⅵ地区が曲がる地点Ｇい・う－9･10にある。幅90cm深さ40cmを測る。北西方向に流れている。

M７号溝状遺構　Ｍ６号溝状遺構の東のＧあ・い－８・９グリットにある。幅116cm深さ28cmを測る。ほぼ南北方向にあり、南側が低い。

M８号溝状遺構　Ｍ７号溝状遺構の東Ｆけ－５～こ－６グリットにあり、幅40cm、深さ24cmを測る。南北方向に延びるが、南が若干低いのみでほぼ同じ高さである。古墳時代の丸底の杯片が出土している。

M９号溝状遺構　Ⅵ地区東側中央のＦか－２グリットにあり、幅100cm深さ48cmを測る。南北方向に延び南側が低くなっている。

M10号溝状遺構　Ｍ９号状遺構の東にあって、幅104cm長さ696cmを測る北西方向に延びている北西方向が低い。

写真178　M６号溝状遺構土層断面

写真179　M６号溝状遺構（南東より）

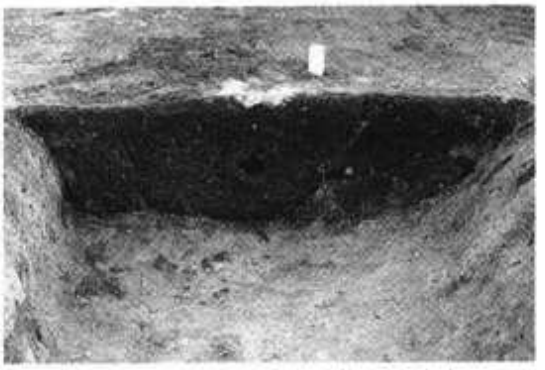


写真179　M７号溝状遺構土層断面

写真180　M７号溝状遺構（南より）

写真181　M８号溝状遺構（南より）

写真182　M10号溝状遺構（南より）

写真183　M９号溝状遺構土層断面

写真184　M９号溝状遺構（南より）

写真185　M11号溝状遺構（西より）

写真186　M12・13号溝遺構（南より）

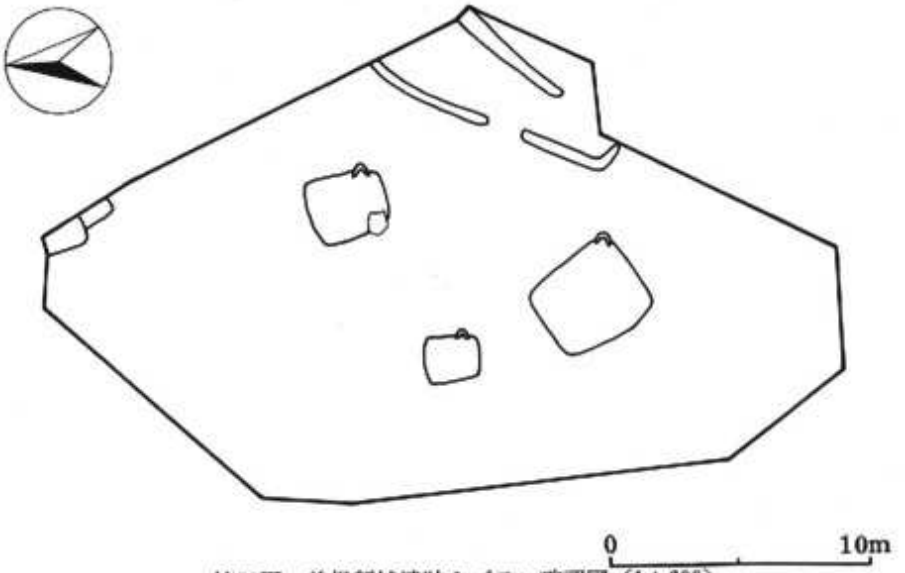
M11号溝状遺構　Ⅵ地区の東端にあって、南北方向に延びる。幅180cm深さ28cmを測る。南側が低くなっている。

M12号溝状遺構　地区の東端にあって、幅272cm深さ36cmを測る。南側が低く田切りに接する地点であるため幅が広いものと思われる。

M13号溝状遺構　Ⅵ地区の東端にあって、M12号溝状遺構の東に隣接している。幅220cm深さ40cmを測る。やはり南に低い。

第６節　曽根新城遺跡１

試掘調査のみで駐車場用地ということで、埋土保存した。平安時代の住居址５棟、溝状遺構が検出された。北東はＨ２号住居址の南西隅にあたる。

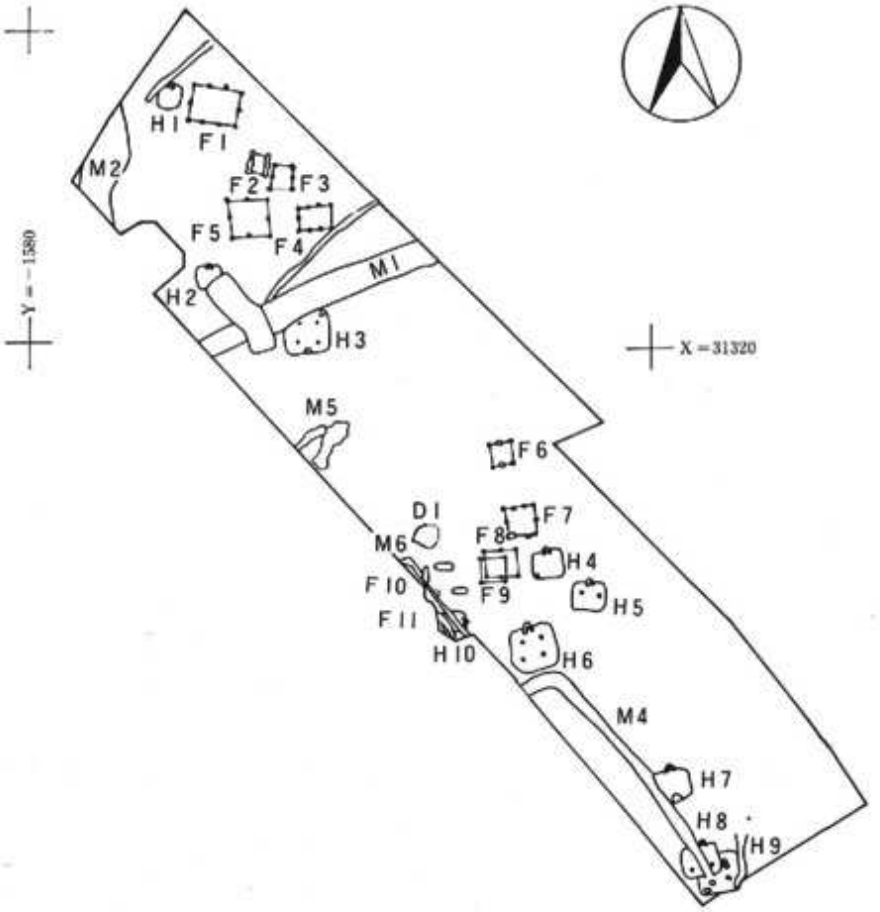


第80図　曽根新城遺跡１プラン確認図（1：600）

写真187　曽根新城遺跡１（西より）

第Ⅳ章　上久保田向遺跡遺構と遺物

上久保田向遺跡Ⅰ地区



第81図　上久保田向遺跡Ⅰ地区

第１節　上久保田向遺跡Ｉ地区

１、竪穴住居址

１）Ｈ１号住居址

遺構

Ｉ地区北端Ｅあ－２グリットにある。北東を撹乱溝により壊される。

規模は、長軸を東西にもち、3.12m×2.8m、壁残高16cmである。主軸方位はＮ－10°－Ｅ。

床面の状態はロームブロック・黒色土ブロックを含む黒褐色土で貼り床されて締まっていた。

主柱穴は検出されず南壁下中央にピットがあるのみである。掘り方では南西と中央よりやや北寄りにピットがある。

覆土は黒褐色土である。

カマドは北壁中央にあり、長さ82cm幅72cmを測る。袖に石を利用した状況が残る。

遺物

土器730g が出土している。

土師器は杯・甕・台付き甕、須恵器杯がある。

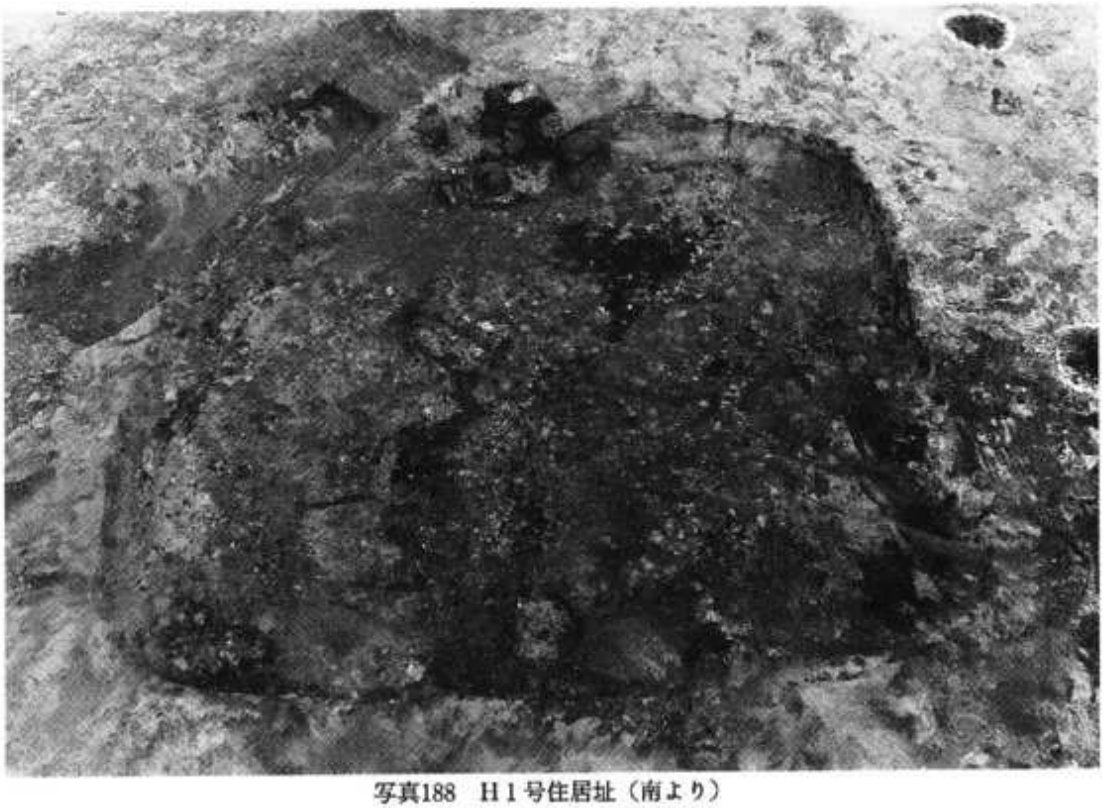
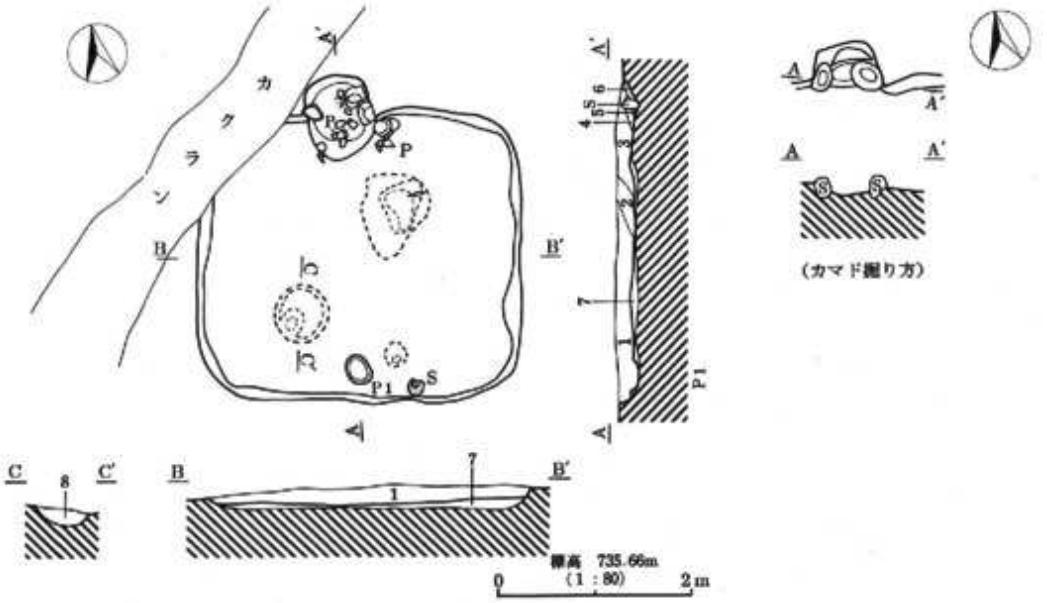


写真188　Ｈ１号住居址（南より）



第82図　H１号住居址実測図

H１土層説明

1．黒褐色土層（10YR３／２）
　ローム・パミス粒を多量に含む。砂質。
2．黒褐色土層（10YR２／２）
　ローム粒を多く含む。砂質。
3．暗褐色土層（10YR３／３）
　ローム粒子を極めて多量に含む。ロームブロックを含む。砂質。
4．暗褐色土層（7.5YR３／３）
　ローム粒・焼土粒を多く含む。
5．暗赤褐色土層（５YR３／６）
　焼土層。
6．褐色土層（7.5YR４／４）
　ローム粒子多く含む。
7．黒褐色土層（10YR３／２）
　貼り床。上面は締まっている。
　ロームブロック・黒色土ブロック含む。
8．褐色土層（10YR４／４）
　ローム粒・ロームブロック・パミスを多量に含む。
　炭化物を含む。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される。３は「室」が墨書される。甕は武蔵甕で口縁部形態「コ」の字形である。須恵器杯はロクロ調整のままで、ゆがみが著しい。

時期は資料が少ないので限定できないが９世紀代であろう。

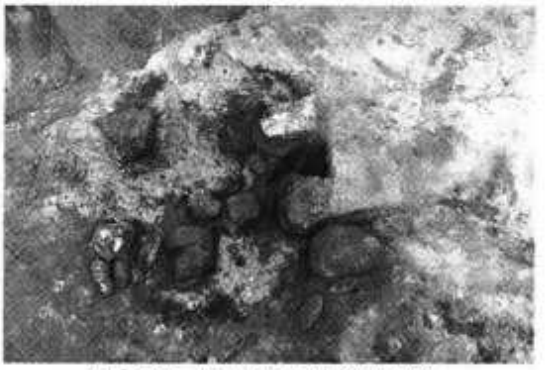
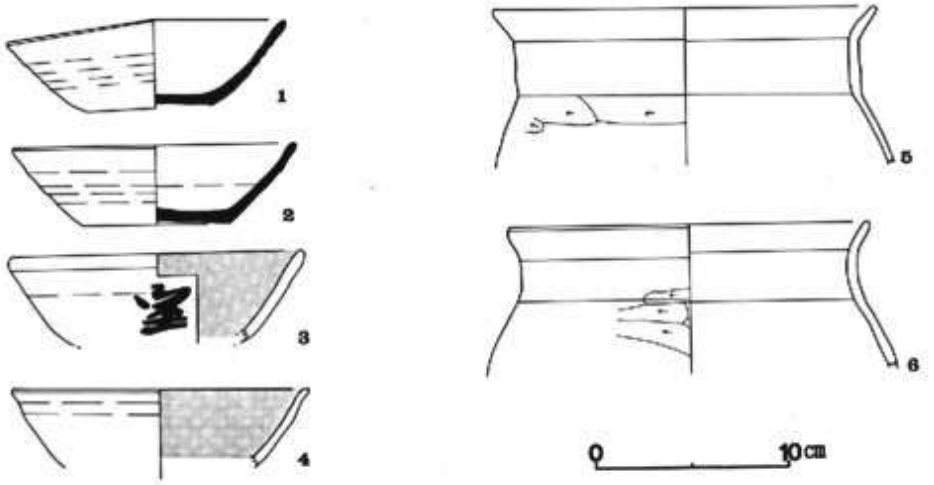


写真189　H１号住居址（南より）

写真190　H１号住カマド掘り方（南より）



第83図　H１号住居址出土遺物実測図

写真191　H１号住居址カマド（南より）

写真192　H１号住居址刀子（南より）

写真193　H１号住居址掘り方（西より）

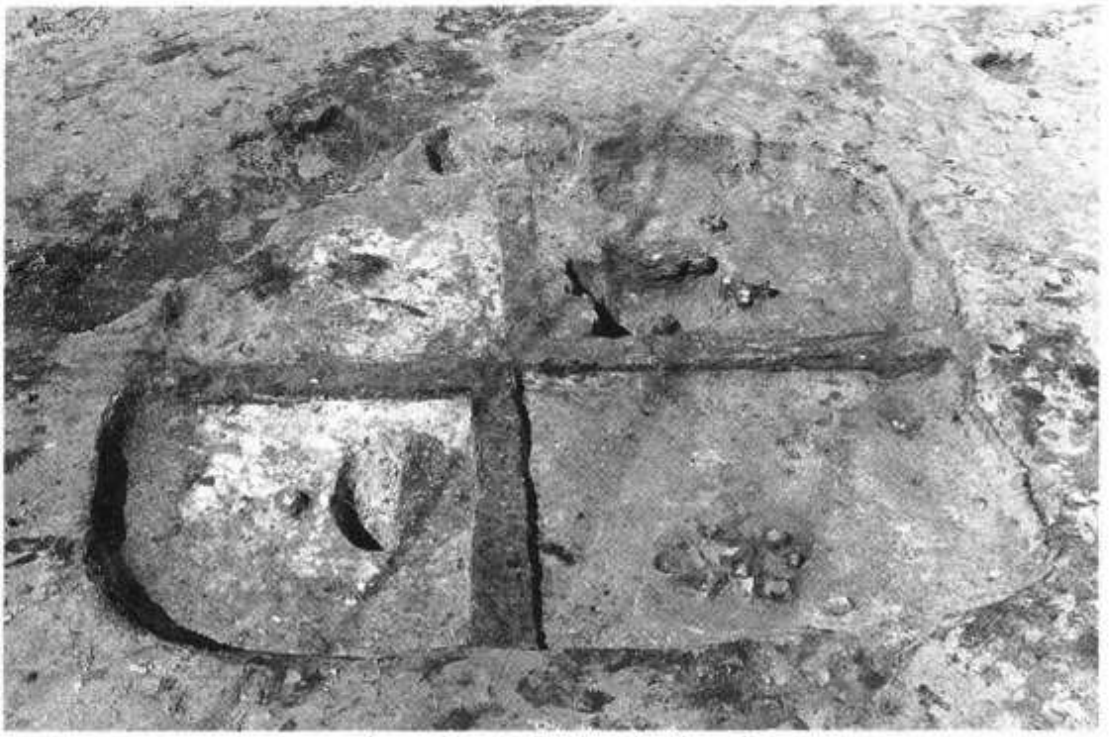


写真194　H１号住居址掘り方（南より）

写真195　H１号住居址掘り方（南より）

2）H2号住居址

I区北側Dこ－8グリットにある。壁はほとんど削平されてなく、床面も生活面はない。南東区が攪乱をうけてない。

規模は2.84mの方形である。主軸方位はN－4°－Eを測る。

床面は黒褐色土で貼り床されている。

主柱穴はなく北西にP1（径44×深さ14cm）・P2（径14×深さ12cm）の円形ピットがある。

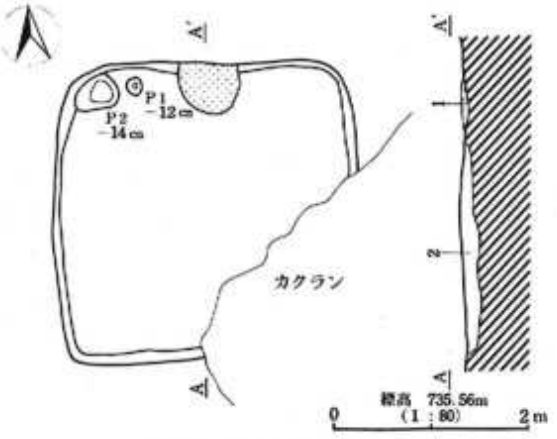
カマドは北壁中央にあり、わずかに火熱をうけた範囲が確認できた。

遺物

土器が300gが出土している。実測できたのは1個体のみで土師器武蔵甕の底部である。比較的厚く丸底気味である。破片では内面ミガキ黒色処理した杯、須恵器杯片は底部回転糸切りのものである。

時期を判断する資料に乏しいがH1号住居址と近い時期と思われる。

H2土層説明
1．褐色土層（7.5YR4／3）　焼土・炭化物含む。
2．黒褐色土層（10YR3／2）床か。
　ローム粒・ロームブロック・パミス多量に含む。砂質。



第84図　H2号住居址実測図

写真196　右上にH2号住居址を望む。

第85図　H2号住居址出土遺物実測図

3）H3号住居址

遺構

I区中央北Dか－10グリットにあり、長軸を南北に持ち、5.0m×4.84mを測る方形の住居址である。壁残高は28cmある。主軸方位はN－2°－Wを測る。M1号溝状遺構に北西隅を切られている。

床面は良く締まっている。掘り方は中央部を残し、周辺部を掘り下げ貼り床している。ロームブロックを含む黒褐色土を入れ込んでいる。

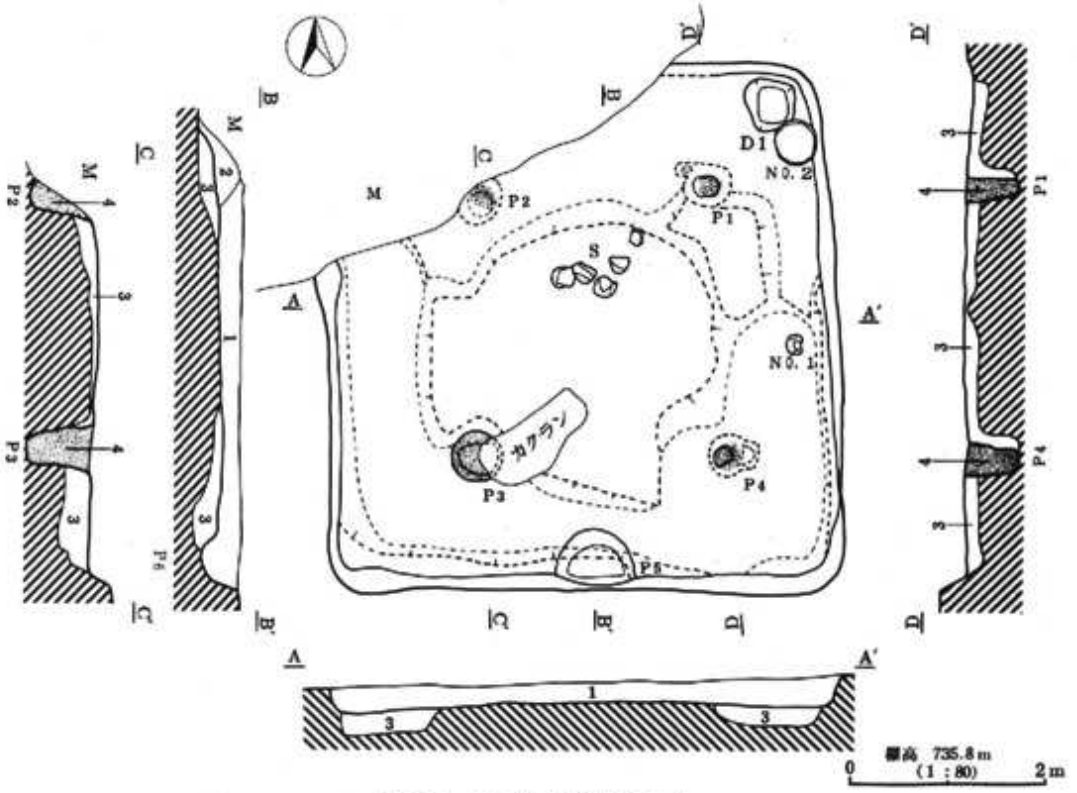
柱穴は主柱穴4本と南壁下の出入口ピットがある。主柱穴は2.6mの方形に配され、径28cm程の柱痕が残りピットは径40～46cm深さ53～68cmを測る。P5は長径80cm短径52cm深さ16cmを測る。

土坑は北東隅にあり、一辺52cm深さ18cmを測り隅丸方形を呈す。

覆土は黒褐色土で砂質ある。

カマドは北壁にあったと思われるが、撹乱により壊されている。

写真197　H3号住居址（北より）



第86図　H３号住居址実測図

H３土層説明

1．黒褐色土層（10YR３／２）　ローム・パミス粒多量に含む。
　黒色土ブロック含む。砂質。
2．黒褐色土層（10YR３／２）　黒色ブロック含む。黄橙色（7.5YR８／８）粘土ブロック含む。
3．黒褐色土層（10YR３／２）　ロームブロック多量に含む。
4．黒褐色土層（10YR３／３）　柱痕。(P５　暗褐色土層（10YR３／３）　パミス・ローム粒、炭化物片を含む。)

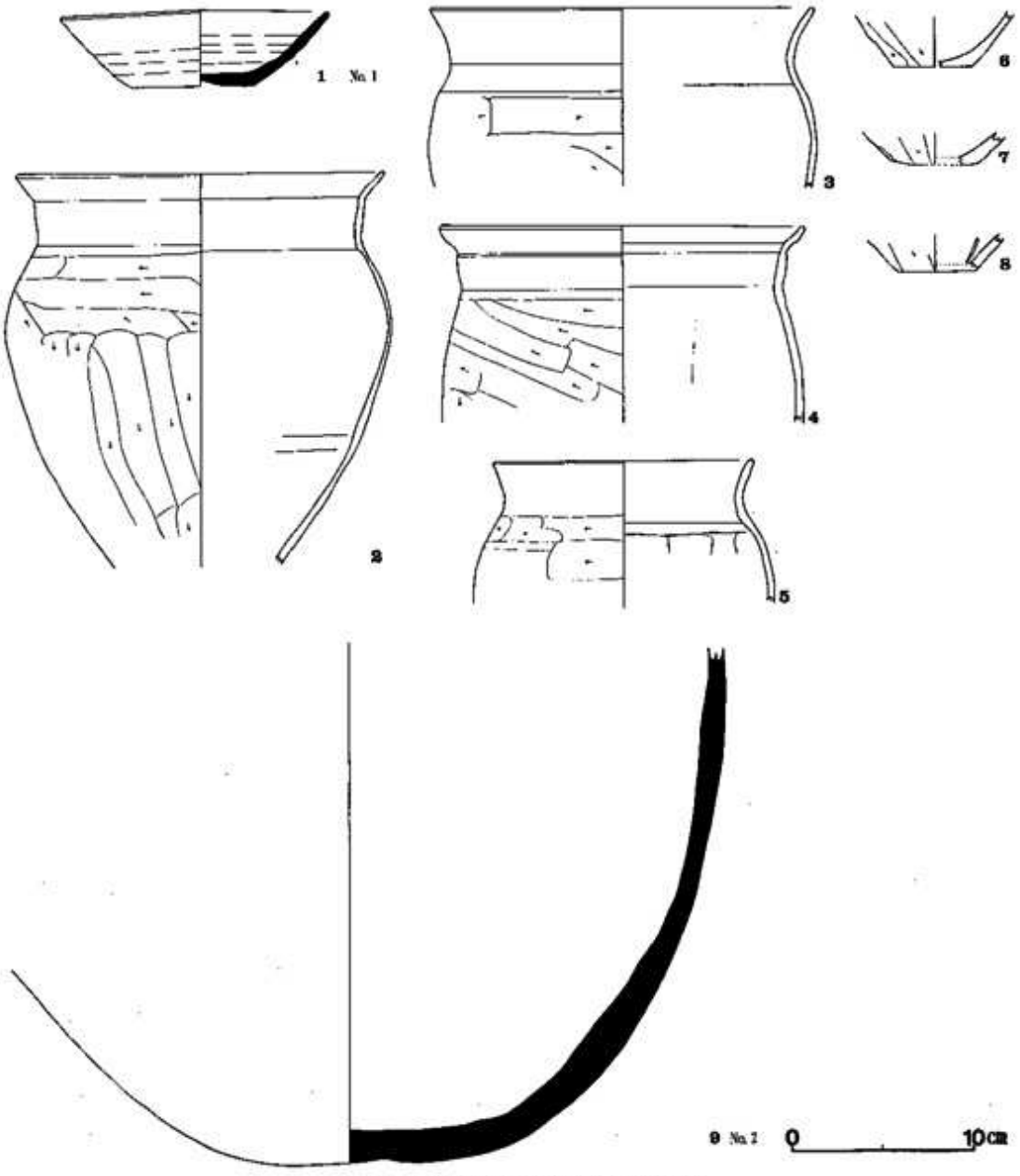
写真198　H３号住居址（南より）

写真199　H３号住居址（東より）

遺物

土器2.0kgと鉄族・鉄鎌が出土している。

土師器は杯・甕・小型甕、須恵器は杯を出土している。土師器杯は底部回転糸切り、内面ミガキ黒色処理する。甕は武蔵甕で口縁部形「コ」字形の2・4と「く」字形の3の両者がある。須恵器杯はロクロ調整のままのものである。須恵器甕は大型品で丸底で外面平行タタキ目、内面は円弧文が施される。時期はこれらより9世紀後半であろう。



第87図　H3号住居址出土遺物実測図

写真200　H３号住居址鎌出土状況

写真201　H３号住居址鉄鏃出土状況

写真202　H３号住居址甕出土状況

写真203　H３号住居址掘り方（北より）

4）H4号住居址

遺構

I地区中央南側Gけ－7グリットにある。長軸を東西に持ち、規模は3.64×3.2mの長方形の住居址である。壁は30cm程残っている。幅48cmの撹乱溝が北中央から南東隅にかけて住居址を壊している。

床面は締まっており、掘り方は東～南東にかけて掘り込まれ低く、ロームブロックを含む暗褐色土で貼り床されている。

柱穴は生活面では検出されず、掘り方で東西の壁寄りにP1径32cm深さ25cm、P2径56cm深さ37cmのピットが検出された。土坑は南東隅にあり、径60cm深さ26cmの楕円形のものである。

覆土は黒褐色土で、砂質。壁際は暗褐色土が堆積していた。

カマドは北壁中央にあり、撹乱溝に東側半分を壊されている。長さ80cmを測る。

遺物

土器3.21Kgが出土している。土器は土師器杯・椀・台付き皿・甕、須恵器は杯・短頸壺・甕形土器、灰釉陶器は長頸壺がある。

土師器杯は実測個体はないが、内面ミガキ黒色処理、底部回転糸切りされるものである。椀は深い2と浅い3がある。内面ミガキ黒色処理される。3は渦巻きの墨書がなされる。甕は武蔵甕

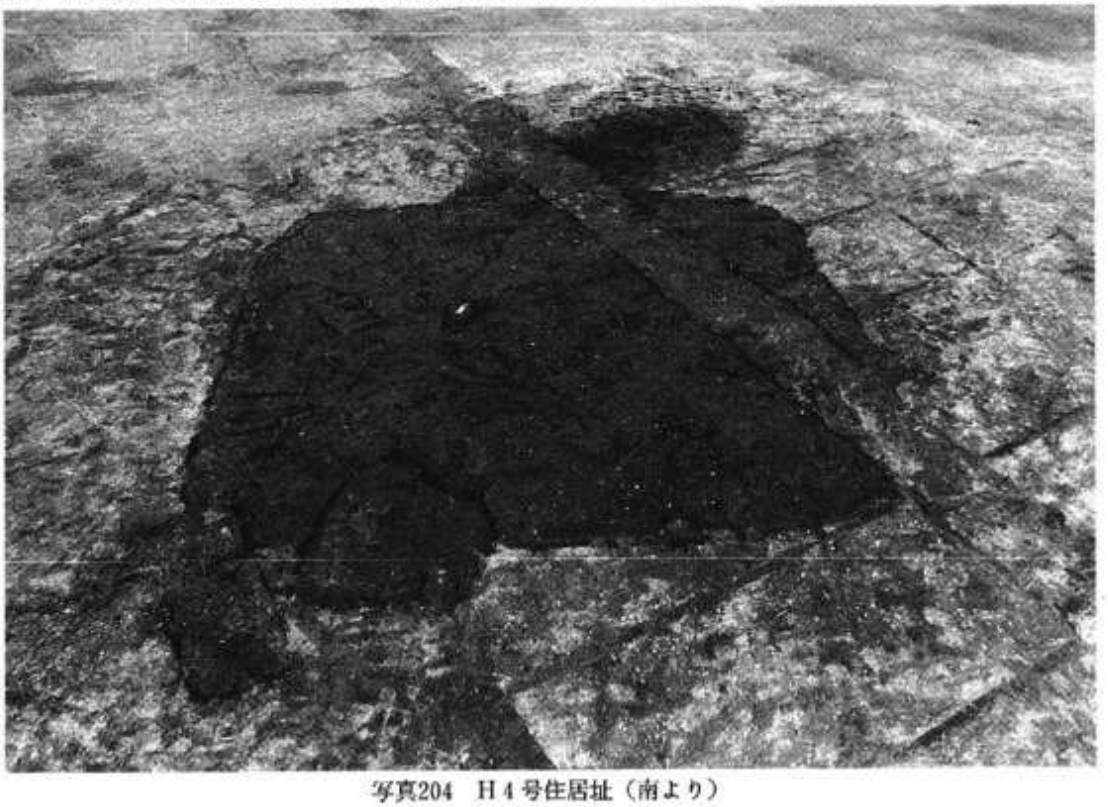
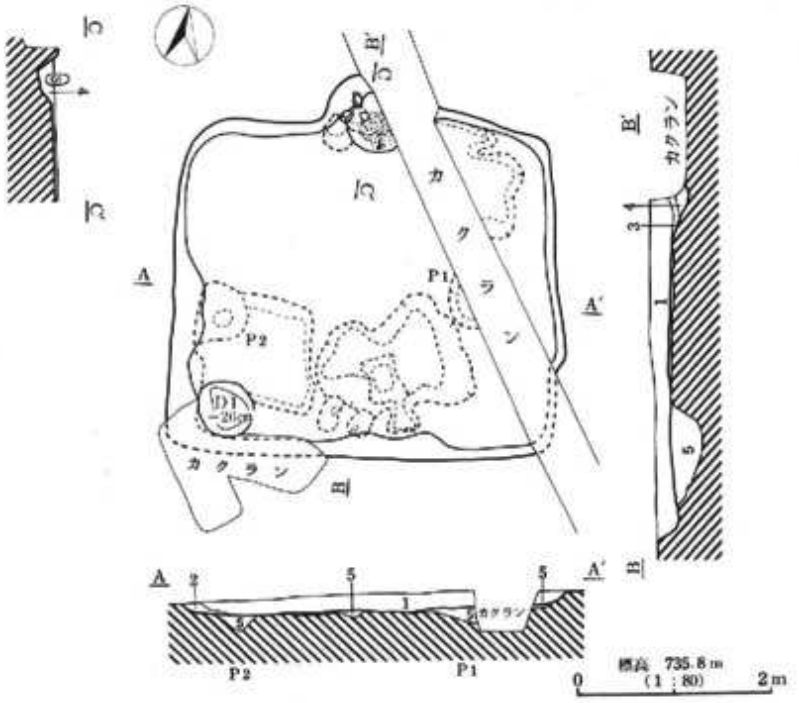


写真204　H4号住居址（南より）



第88図　H４号住居址実測図

H４土層説明

1．黒褐色土層（10YR３／２）　パミスを多く含み，ローム粒子を含む砂質。
2．暗褐色土層（10YR３／３）　ローム粒を多量に含む。
3．赤褐色土層（５YR４／６）　焼土。
4．黒褐色土層（10YR２／３）　焼土・粘土粒子含む。
5．暗褐色土層（10YR３／３）　ローム粒・ロームブロック・パミス多量に含む。貼り床。

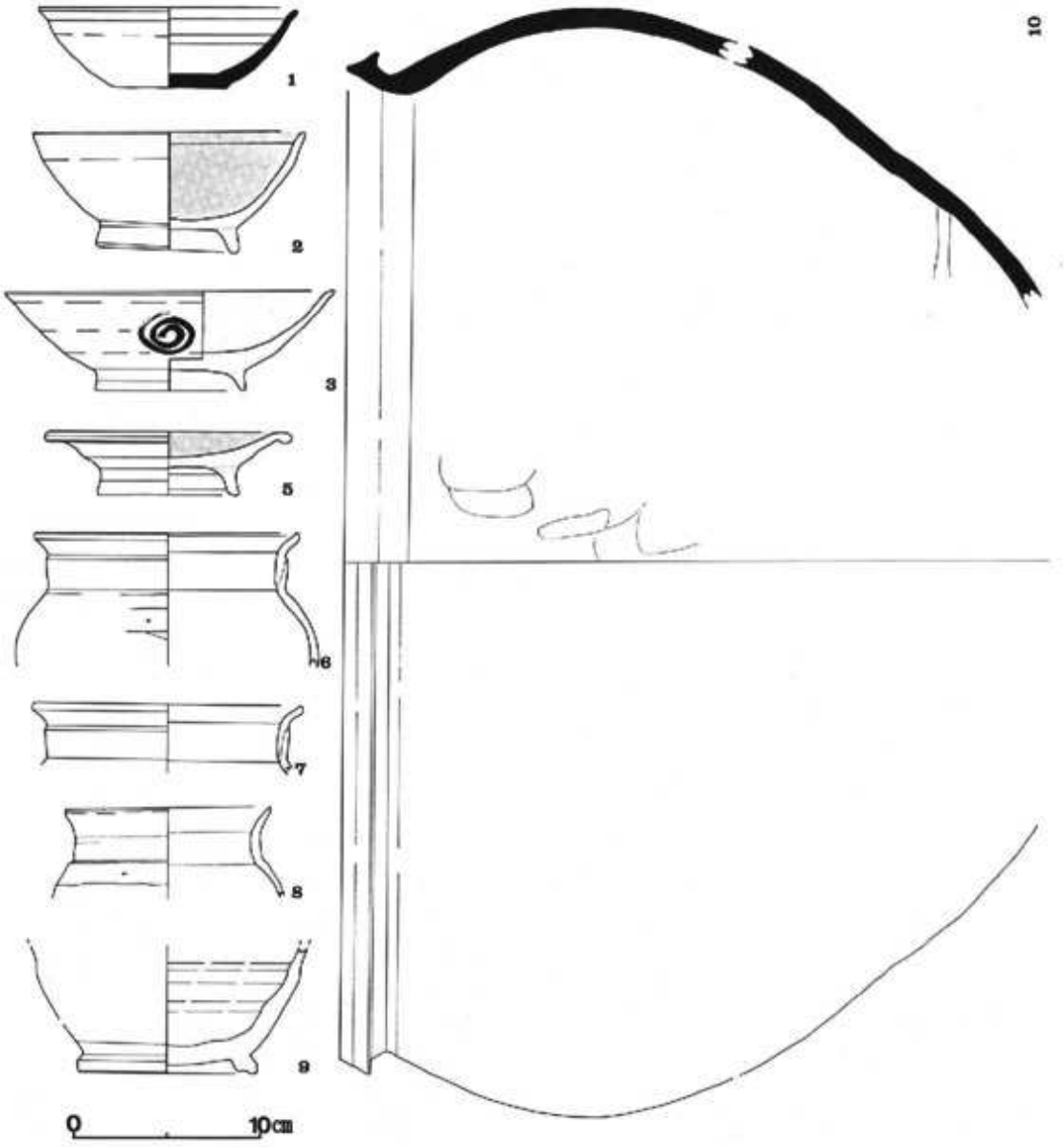
写真205　H４号住居址カマド（南より）

写真206　H４号住居址掘り方（南より）

であるがいずれも小型である。口縁部形態は「コ」の字形である。

須恵器の大甕は口縁が短く外反するもので、外面の調整はロクロ横ナデされる。

時期は9世紀中頃の様相が見られる。



第89図　H 4 号住居址出土遺物実測図

5）H５号住居址

遺構

Ｉ地区中央Ｈ４号住居址の南東Ｇき－８グリットにある。北西隅から南壁中央にかけて幅52cmの暗渠により、一部壊されている。

規模は長軸を東西に持ち、4.2×4.0m を測る方形の住居址である。壁残高は14cmと浅く残存状況は良くない。

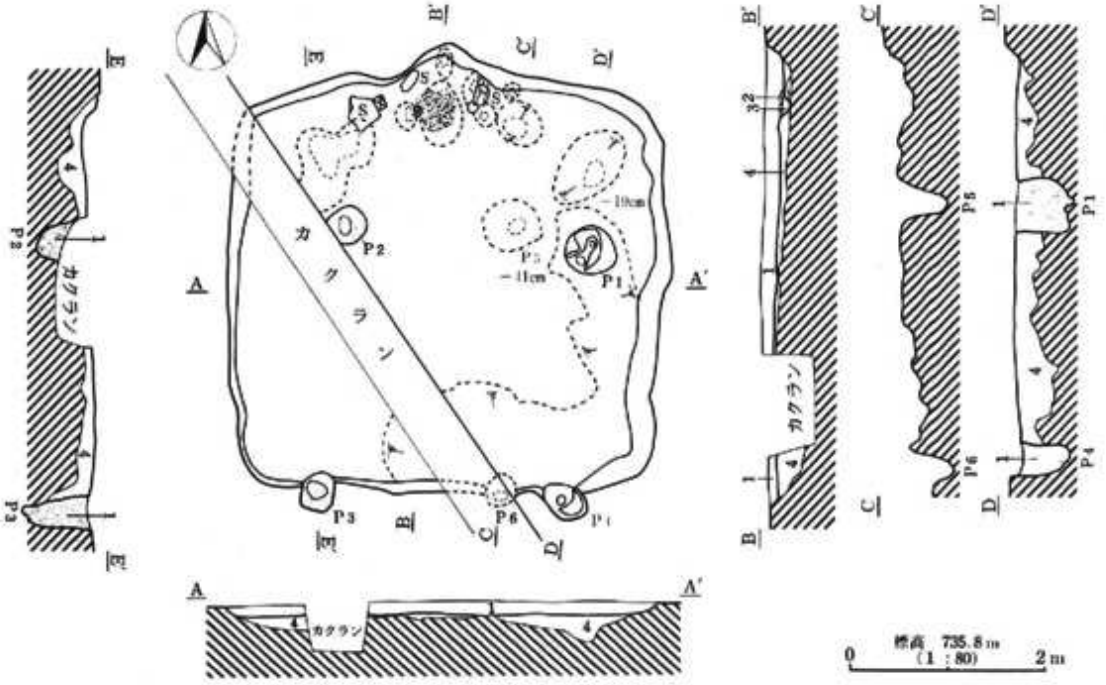
床面は地山を残した部分が締まっていた。掘り方は東から南の周辺部にかけて掘り込み、ロームブロックを含む暗褐色土を貼っている。

主柱穴は４本で、南壁に南側の主柱穴があるパターンである。柱穴の大きさは径36～48cm、深さ52～68cmを測る。土坑はない。

覆土は黒褐色土層である。

カマドは北壁中央にある。わずかに焼土範囲が残る。袖に使用した石等も残り、カマド袖下のピットもあった。

写真207　Ｈ５号住居址（南より）



第90図　H５号住居址実測図

H５土層説明

1．黒褐色土層（10YR３／２）　パミス・ローム粒を多く含む。
2．赤褐色土層（５YR４／６）　焼土。
3．黒褐色土層（10YR２／３）　焼土・粘土粒含む。
4．暗褐色土層（10YR３／３）　掘り方覆土。ローム粒・ロームブロック・パミスを多く含む。

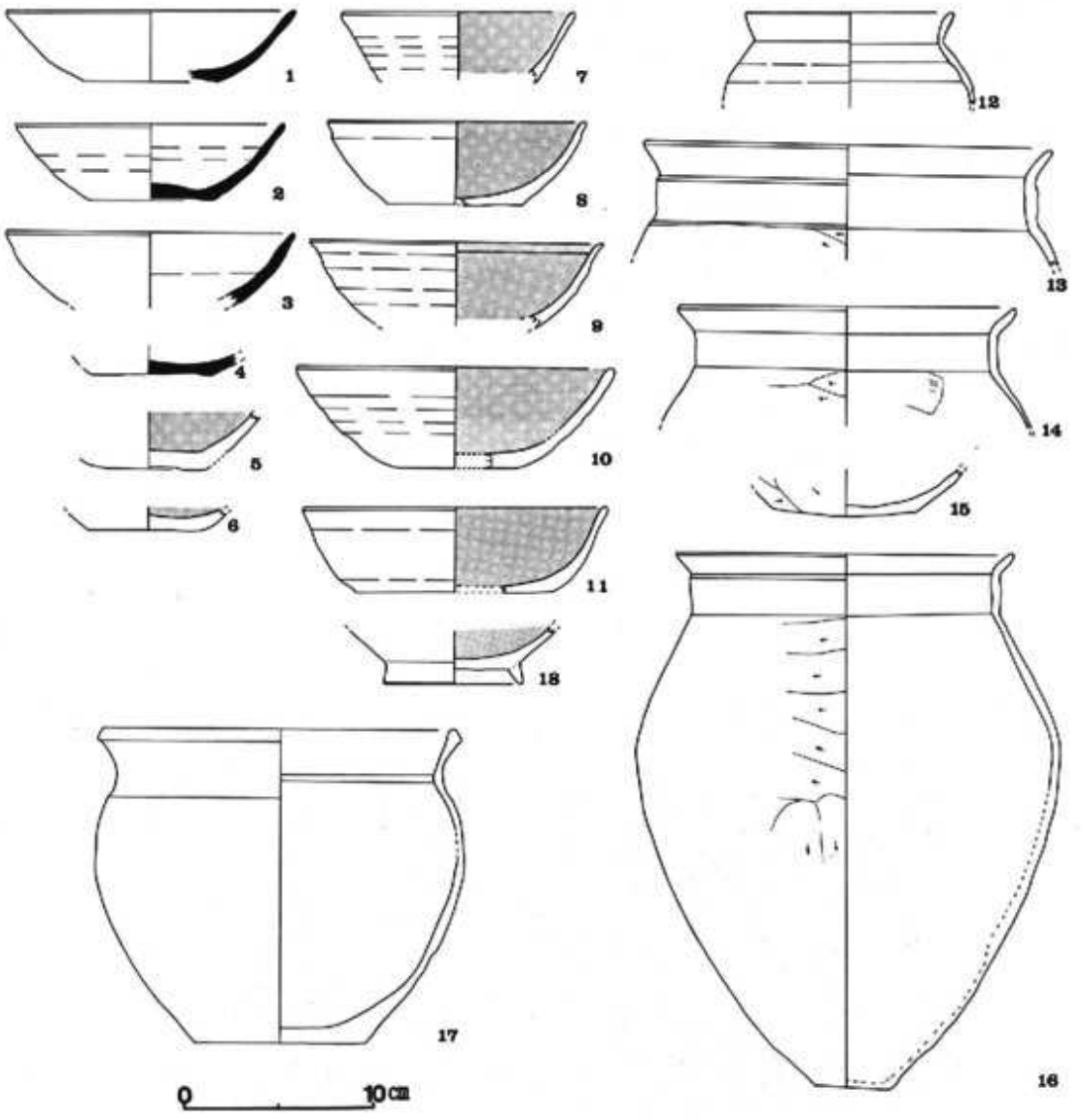
写真208　H５号住居址カマド（南より）

遺物

土器3.47Kgが出土している。土師器は杯・椀・高台付き杯・甕・小型甕、須恵器は杯・甕、灰釉陶器は長頸壺が出ている。

土師器杯は内面ミガキ黒色処理される。底部は回転糸切りのままの5・6と底部へラケズリ調整されるものとがある。17の小型甕は剝離が激しく調整がわからない。12はロクロ甕である。武蔵甕は口縁部形態が「コ」字形を呈するものである。

これらより時期は9世紀の後半に位置づけられるものと思われる。



第91図　H5号住居址出土遺物実測図

写真209　H５号住居址（南より）

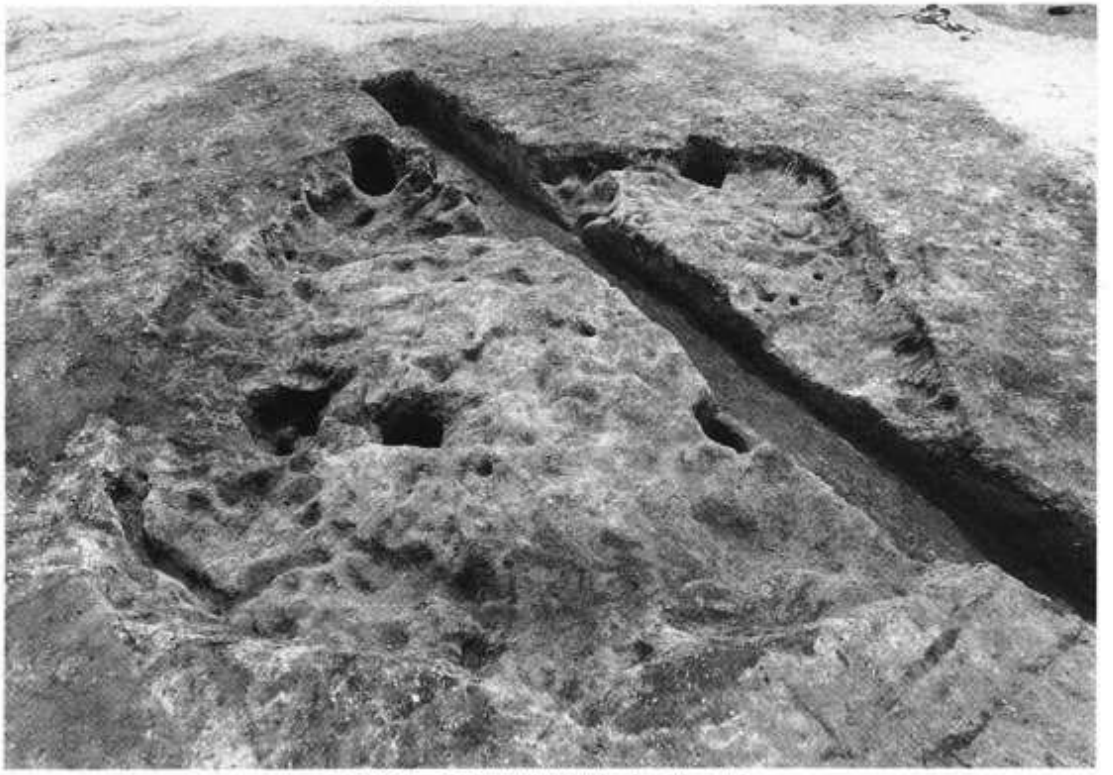


写真210　H５号住居址掘り方（北より）

6）H6号住居址

遺構

H5の南西Gけ－5にある。良好な状態で残っていた。東西方向に長軸を持ち、5.56×5.4mの隅丸方形の住居址である。壁残高は28cm。主軸方位はN－7°－Wである。

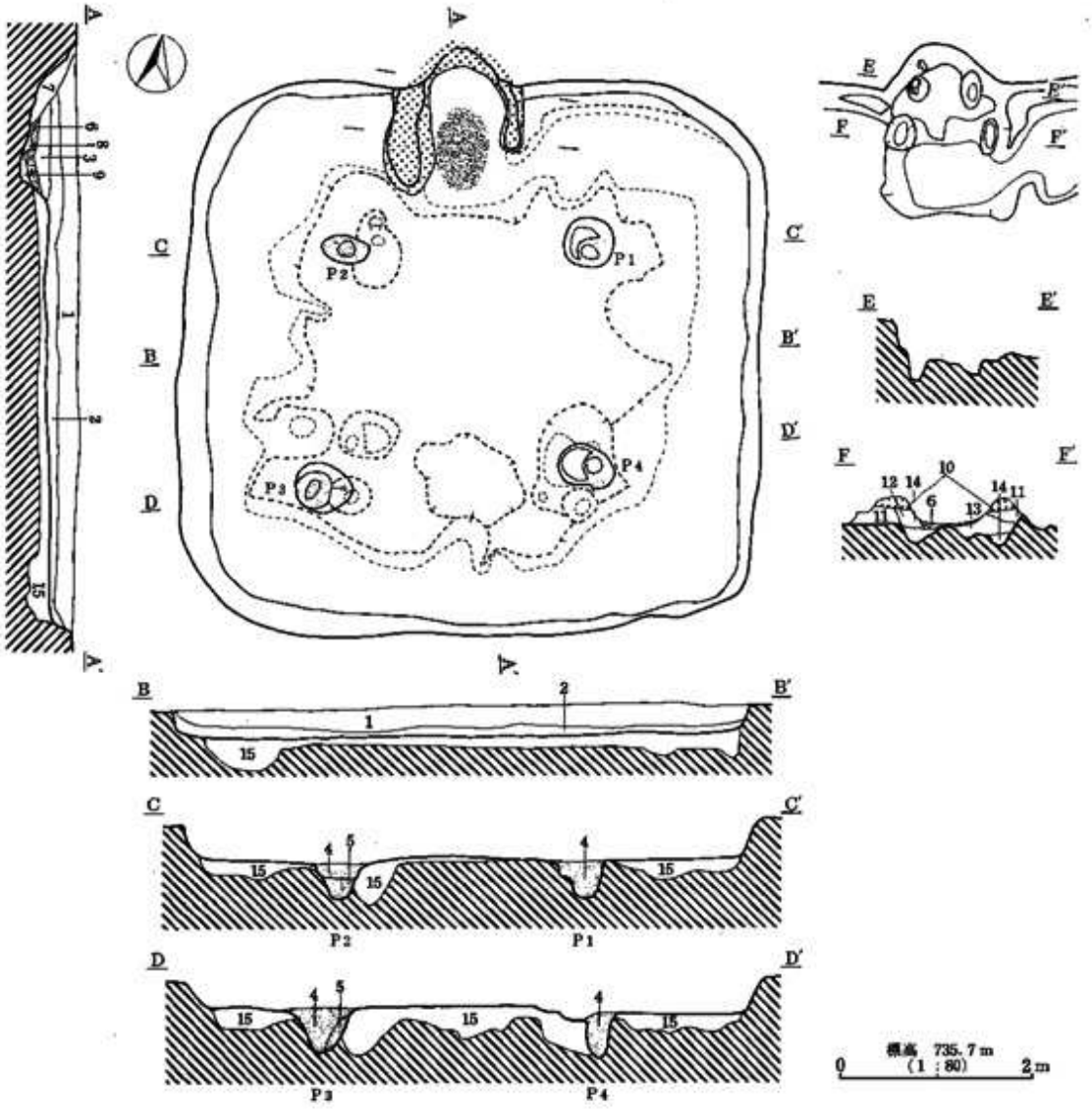
床面は締まっていた。ことにカマドの前面は堅い。床下は周辺部を掘り込んで貼り床している。生活面から深いところで30cm程下がっている。床下からもピットが新たに検出され、旧住居が建て替えられていたようである。

P1～P4の4本が主柱穴で径40～48cmの柱痕をもつ。ピットは径48～64cmの円形と長楕円形で、深さは40～48cmである。

覆土は黒褐色土で砂質である。

カマドは北壁中央にあり、長さ160cm、幅140cmを測る。カマドの袖が残り、焼土も残っていた。

写真211　H6号住居址（南より）



第92図　H６号住居址実測図

H６土層説明

1. 黒褐色土層（10YR２／３）　パミス・ローム を含む。砂質。
2. 黒褐色土層（10YR２／２）　パミス・ローム を含む。
3. 暗褐色土層（10YR３／３）　青黒色（５PB２／１）粘土ブロック含む。
4. 黒褐色土層（10YR３／２）　柱痕。ローム粒含む。
5. 暗褐色土層（10YR３／３）　ローム粒・ローム ブロック多量に含む。
6. 赤褐色土層（５YR６／８）　焼土層。
7. 暗褐色土層（10YR３／４）　粘土ブロックを含む。焼土粒を多く含む。
8. 灰黄褐色土層（10YR４／２）　灰を多く含む。
9. 黒褐色土層（10YR２／３）　ローム粒を多量に含む。
10. 青黒色土層（５PB２／１）　粘土。
11. 暗褐色土層（10YR３／２）　ローム粒多量に含む。
12. 黒褐色土層（10YR２／３）　ローム粒・焼土を含む。
13. 暗褐色土層（10YR３／４）　ローム粒・焼土を含む。
14. 褐色土層（10YR４／４）　ローム粒を多量に含む。
15. 暗褐色土層（10YR３／３）　ローム粒・パミス多量に含む。ロームの貼り床と掘り方

写真212　H６号住居址カマド（南より）

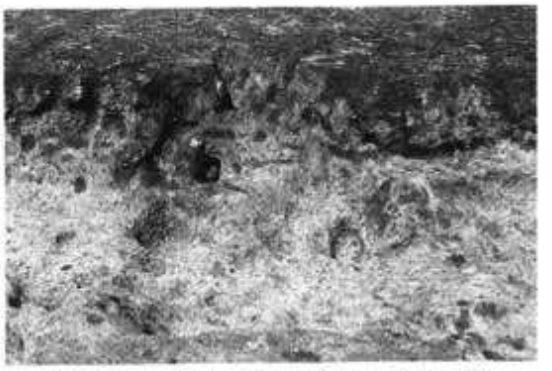


写真213　H６号住カマド掘り方（南より）

写真214　H６号住居址遺物出土状況

写真215　H６号住居址遺物出土状況

写真216　H６号住居址遺物出土状況

写真217　H６号住居址遺物出土状況